

同窓会誌

第 4 号

1974

沼津工業高等専門学校同窓会



もくじ

第4号の発刊について	2
業務報告	3
同窓会総会報告	4
社会(企業)の高専卒業生に対する評価	7
海外紀行	9
職場における高専生	11
東芝機械・電業社・トヨタ自動車	
同窓会誌によせて	13
旧教官	13
教官	17
職員	21
会員	23
全国高専サッカー選手権大会観戦記	31
浜松地区同窓会活動報告	32
告知板	33
名簿担当理事	33
現住所不明者	34
会員死亡報告	34
7,8期生及び住所変更者名簿	35
7,8期生名簿	35
住所変更者	46
編集後記	56

第4号の発刊について

会長 伊達忠昭

49年もまもなく終ろうとしているこの頃、会員諸兄ますます御活躍のことと思います。

早いもので私達の同窓会も今年で8年目を迎え、私達新役員の任期も½以上過ぎました。同窓会の運営という事については私をはじめとして、副会長の島村君、事務長の跡部君も全くの未経験者でありまして、最初の内は、わからないことばかりでしたが、実際活動を始めてみると、やらなければならないことが随分と沢山あり、その使命感のようなものと、理事の皆さんや学校の関係の方々が非常によく協力して下さったおかげで今日までやってまいりました。

一会員としてみると同窓会の活動というのは年に一度総会を開き、数年に一度名簿を発行し、時に同窓会だよりを発行するという程度にしか見えなと思います。

実際、私も以前はその程度のものと認識していました。

これらは、確かに同窓会の重要な仕事であります、同窓会の設立目的である会員相互の親睦、連絡及び母校との連絡をはかる、ということに対してはまだ不十分ではないかと思えます。

会員名簿は10周年記念の時、発行されましたが現在ではこの名簿で連絡のとれない会員は非常に大勢いますし、7、8期生の名簿は今まで発行されていませんでした。

会員相互の親睦という点についても、まず顔を合わす機会が無い為に、去る者日々に疎し、というのが実情ではないでしょうか。

会員同志と一緒に飲みながら高専卒であることの誇りや悩み、或いは将来の夢や希望について語り合い、互いに助け合って、親しくつき合ってゆくというのは誰もが望んでいることではないでしょうか。

しかし、現在では会員が集まる機会は年に一度の総会しかなく、これとて出席できる会員は全体の数分の一程度であります。

これに対して私は前回の三号でも述べましたように各地域別に支部を作る事によって会員相互の親睦と交流をはかりたいと考えます。名簿は今回でほぼ整備、追補ができましたので、今後支部結成に必要な情報は本部から積極的に提供致します。

既に支部を作りたいので県内在住者の名簿を送って欲しいという申し出も届いております。

各地の有志の皆さん、私達本部の役員も積極的に協力します。全国各地に多くの支部を作り、活発な沼津高専同窓会を育ててゆきましょう。

終りになりましたが、同窓会を運営していく上に於いて、樋口校長先生、顧問の教職員の方をはじめとして学校の関係の方々には、常日頃、労をいとわぬ御協力をいただいている事を皆さんにお知らせすると共に、この場であらためて厚くお礼を申し上げます。

同窓会総会報告

事務長 跡部 恵一朗

昭和49年10月27日(日)、高専祭にぎわう母校の一角、学寮食堂にて、昭和49年度沼津高専同窓会総会が開かれました。

昭和48年度総会が、事情により半年前に行なわれたばかりとて、役員一同、一抹の不安を抱きながら準備を進めていましたが、同窓生149名、旧教職員4名、母校より樋口学校長始め多数の教職員の御出席を戴き、総勢200名近くの盛会でした。

早朝の雨もやみ、まずまずの天気うちに、総会開会予定時刻を迎えましたが、受付の一段落した午後1時15分、予定より15分遅れて司会者鞠子君(M5)の開会の辞に始まり、議長団には、議長木ノ内君(M1)、副議長神山君(E2)、書記中村君(C2)が選ばれました。

伊達同窓会長(M1)の挨拶のあと、議事に入り、前事務長水上君(E5)より昭和48年度決算報告、前監事小池君(E3)より監査報告があり、圧倒的多数にて承認されました。続いて、伊達会長より、昭和49年度業務計画案及び中間報告がなされ、承認を受けた後、今総会の最大議案である、会則改正案及び、会則改正に伴う移行措置案及び、詳しい説明が島村副会長(M1)よりありました。同窓会財政の現状の説明から、将来展望、同窓会の使命まで、説得力ある説明に、圧倒的多数の賛成を得て可決されました。

跡部事務長(M1)より、昭和49年度収支予算案の説明があり、これも圧倒的多数にて可決され、議事を終りました。

その後、伊達会長より同窓会役員の紹介、顧問教官及

び顧問事務官の紹介があり、議長団の解任を経て、無事閉会致しました。

懇親会の準備の間に学寮食堂前にて、記念写真を撮る予定でしたが、総会議事を終るのを待っていたかのように雨が降り出し、やむを得ず、室内にて撮影を済ませました。

テーブルの用意のできたところで、堀井君(M5)の司会のもとに、懇親会に移り、同窓会名誉会長である樋口学校長の挨拶、そして、顧問教官市川先生の祝辞と旧教職員(来賓)の紹介で、安土先生、深尾先生の祝辞を戴きました。

漆畑君(E1)の音頭で乾杯、歓談となりました。

卒業以来初めて会った者同志互いの変貌ぶりにビックリしたり、奥さん子供を引連れた卒業生を妻帯者が囲んでの育児談話など、ホホエマシイ風景も展開されました。

久しぶりに会った恩師の毒舌に、今健在なりの感を深くし安心?したりする者、先輩、後輩、恩師の間を飛びまわっては、年賀状がわりに1年分の挨拶を済ませてしまう者など珍風景も続出、楽しい一時のうちに、テーブルの上もあらかた片づいた3時半頃、宮下君(M1)のリードで、校歌斉唱、万才三唱にて結び、堀井君の閉会の辞で、幕を閉じました。

名残り惜しげな悪童連中、各々一団となって学寮食堂を後にしましたが、そのまま帰宅したとは思われませんでした。なんとすれば、この日、沼津・三島の飲屋は、ひときわ賑わったとの噂を洩れ聞いていますから。



業 務 報 告

昭和49年度 業務計画及び中間報告

会長 伊 達 忠 昭

業務計画について

旧役員からの引継ぎ事項を中心に新役員で十分検討し、理事会で審議した上で総会に於て次の4項目を承認されました。

1. 総会は今後毎年、母校高専祭の中日の日曜日に行なうものとする。
2. 同窓会だよりを年2回発行する。
1度は事務連絡的な内容を主体とし、1度は会員の投稿を中心とした内容の豊富なものとする。
3. 会員名簿の整備及び7, 8期生の名簿の追補を行なう。
4. 各地域別に支部の結成を推進する。

業務中間報告について

上記4項目の計画に基づいて活動を開始したところ、現在の財政状態でこの活動を行なうと、2, 3年で赤字財政となることが予想されたので、財政建直しの為に、理事会で十分審議して、会費に関する会則改正案を作成しました。

以下、上記4項目についての現在までの経過を報告します。

1. 総会は今年度の高専祭が10月26~28日に行なわれましたので27日の日曜日に母校学生寮食堂で行ないました。
2. 同窓会だよりは9月1日に第3号を発行しました。
第4号は12月中頃に発行する予定で、編集委員が準備しています。
3. 会員名簿の整備及び7, 8期生の名簿の追補について。
今まで数人の理事が担当してきましたが、会員数が千名を越えた現在では不可能ですので各理事が自分のクラスの名簿を管理し、整備を行なう事にして、

理事不在のクラスについては近郊在住者に依頼しました。

各理事の名簿を作成しましたので、今後、住所変更或いは勤務先変更があった場合は必ず自分のクラスの理事に連絡して下さい。

4. 支部の結成について

名簿の整備ができなければ実行不可能と思われましたので、今までは名簿の方を優先して進めてきましたがほぼ完了しましたので、今後具体的に計画を立てて進めたいと考えます。

会費値上げ会則改正決まる!!

年会費は廃止し終身一本に

さる10月27日の同窓会総会にて、理事会提案による会則改正（会費値上げ及び年会費制の廃止）が大多数の賛同を得て決定されました。

沼津高専同窓会 会則改正内容

現 行 会 則	新 会 則
<p>第八章 会計</p> <p>第14条 本会の正会員は、入会金及び普通会費又は終身会費を納入するものとする。</p> <p>入会金 500円 普通会費（年額） 500円 終身会費 5,000円</p> <p>第15条 本会の経費は入会金および普通会費、終身会費、その他をもってこれに当てる。</p>	<p>第14条 本会の正会費は終身会費を納入するものとする。</p> <p>終身会費 10,000円</p> <p>第15条 本会の経費は、終身会費その他をもってこれに当てる。</p> <p>附則4. この改正会則は、昭和50年3月1日から施行する。</p>

会則改正に伴う移行措置(総会議決)

昭和49年4月以前に会員となった者は、昭和50年2月28日迄に改正前の終身会費を全額納入する。

昭和50年3月1日以降に納入する者は、改正後の終身会費を全額納入する。

【値上げ理由】

創立十周年記念以来盛り上がり来た同窓会活動を維持、発展するために、長期構想を立て、予算計画を立てた所、現状では期待収入が年70万円に対し、予想支出が約100万円が見込まれ、51年度末に赤字、52年度末には約55万円の赤字となる。

インフレが進み、第一期生のころの終身会費は初任給の1/4に相当したが、今の初任給では1/2となっている。又、会費の60~70%は会員全員への配布物、通信費となっているが、値上がりがいちじるしい。かといって連絡をやる事は同窓会の意味をなさなくなる。

寄附及び配布物の有料化はいずれ行うが、今はその状況に無く、安定収入の入っている間にその体制を作っておく必要が有る。

以上の様な検討を4月~10月まで理事会で行ない、他校の同窓会の方法、収入源などを調査した結果値上げにふみ切った。

【年会費廃止理由】

年会費は現状では収入のわりに手数や手数料がかかり全員が毎年確実に納入してくれても大巾な値上げを必要とする。ところが現実として連続して納入してくれている人はほとんどおらず、又振替用紙を入れても期待効果

はほとんどなかった。

7及び8期生は終身会費をほとんど納めており、現状では卒業時の会費で一年間をまかなうしか安定予算が組めない。

これから一生会費を納めるより、値上げ前に一括納入した方が会員にとっても得作である。(すでに3回以上年会費を払ってくれた人がほんの数人いるが、今後の支払い及び会費値上げの事を考えていただいたら理解してもらえると考える。後で説明するが、すでに年会費を納入している人も、納めた額にかかわらず終身金額を収めてもらう。)

終身一本となったため、入会金は廃止する。

【支払い方法】

現在会費の未払いの者又は年会費の者はS50年2月28日までに同封の振替用紙を使用又は直接納入していただければ5千円で結構です。それまでに納入しなかった者は1万円となります。

なお、すでに終身を払っている方々には、“会費納入ズミ”の表示をしておきますので振替用紙が入っていても納めないで下さい。

【今後の計画】

卒業時の収入にたよっていても、会員の方は増大する一方なので、いずれ財政赤字がおとずれます。それまでの間に、配布物の有料化、寄附、広告料等の収入が入る体制作りをしていきたいと思えます。又、国家の補助を得て、同窓会館を立てたり、専任者をおいたりと言う遠い目標をも立て、路線検討をして行きます。

(副会長 島村 俊記)

昭和48年度 同窓会収支決算報告書

収 入		支 出	
前年度繰越	771,458円	会議費・通信費	71,810円
会費・利息	154,841	総会費用	115,840
8期生会費	648,000	祝儀等	100,000
小 計	1,574,299	小 計	287,650

49年度へ繰越し 1,286,649

昭和49年度 同窓会 予算書

取 入		支 出	
前年度繰越	1,786,649(円)	会議費	60,000(円)
会費	1,200,000	通信費	150,000
利息	14,000	総会費	80,000
		事務費	50,000
		慶弔費	130,000
		機関誌 (同窓会だより, 会誌)	450,000
		雑費	30,000
		予備費	100,649
		小計	1,050,649
		次年度準備金	1,450,000
合計	2,500,649	合計	2,500,649

昭和49年度 同窓会総会懇親会決算報告

取 入 の 部		支 出 の 部	
総会費	80,000 同窓会運営会計より	オードブル	140,000 4,000円×35
懇親会費	149,000 1,000円×149名	飲物	35,365
		剰余金	53,635
計	229,000	計	229,000

剰余金53,635円は同窓会運営会計予備費に繰入れます。

社会(企業)の高専卒業生に対する評価

学校長 樋口 泉

学校の目的は青年学徒の成長に、よい環境を整え、充実した学園生活を体験してもらおうと、ともに優秀な卒業生を社会に送り、卒業生諸君がそれぞれ立派な社会生活ができる基礎を養うことである。

赴任以来、まず高専の実態を勉強中であるが、卒業生諸君が高専の学生生活をどのように回想されているか、また社会の高専卒業生への評価について調査してみたいと思っていたところ、最近阿南高専の教官が行なった全国的調査報告書を手に入れたので、その結果の一部を紹介して所見を述べることにしたい。

調査は数人以上の高専卒業生を採用している会社約600の中から、回答のあった377社について整理したもので、回答者は人事の部長、課長、課員が大部分でその中でも課長が最も多い。まず主な結果を述べる。

1 数値に対する評価

a; 大卒以上 0%, b; 大卒と同程度13.0%, c; 大卒には劣るが年令以上47.6%, d; 短大卒と同程度29.7%, e; 高卒程度 6.5%, f; その他 3.2%,

2 専門学力に対する評価

a; 大卒以上 1.2%, b; 大卒と同程度31.2%, c; 大卒に劣るが年令以上51.2%, d; 短大卒と同程度15.8%, e; 高卒程度 0%, f; その他 2.4%,

3 卒業生の最近の学力低下

a; かなり低下17.4%, b; やゝ劣力低下43.2%, c; 低下なし14.7%, d; 劣力向上 3.5%, e; なんともいえない18.9%.

4 給与の格づけ

a; 工高卒と同じ 0%, b; 高卒と短大卒の中間1.1%, c; 短大卒と同じ42.4%, d; 短大卒と大卒の中間程度31.6%, e; 2年経過後は大卒と同じ22.0%, f; 入社時から大卒と同じ 0.3%, g; その他 2.7%

5 給与体系

a; 2年経過後は大卒と同曲線46.7%, b; 入社時から大卒と同曲線 4.0%, c; 大卒より低い位置づけ20.4%, d; 一定年限までは大卒と同等、以後はゆるい曲線 0.8%, e; 役職につけば別体系17.5%, f; そ

の他10.6%.

6 高専卒業生の長所 (各社15項目中から3個以内選択)

a; 年令の割に専門的実力がある46.8%, b; まじめである42.4%, c; 従順素直である40.3%, d; 堅実な生活態度である33.5%, e; 研究心がある23.8% f; 適応性がある14.7%

7 高専卒業生の短所 (14項目中より3個以内選択)

a; 指導性に欠ける36.4%, b; 社交性・社会性に欠ける29.7%, c; 個性がない26.5%, d; 知識・教養・常識がない15.9%, e; 自己中心的である15.3% f; 思慮が浅い11.2%, g; 信念・信条・人生観がない11.8%

8 以上主な項目を拾ったが、各項について少しく所見を述べる。その前に文書によるアンケート調査というものは、課題の問いかけ方で結果が大きく変るし、立体的に検討しなければ、相互矛盾にも気がつかない場合もある。このことをよく認識したうえで、一応本調査結果を認めて話を進める。

8-1 まず1項について、大卒では、高校で3,000~3,500時間、大学教養課程で900~1,200時間、合せて3,900~4,700時間の教養に関する履習時間があるが、高専卒では3年までに2,555時間、4と5年で525時間、合せて3,080時間である。卒業生諸君にも教養が足りないのではないかという、いわゆるコンプレックスも一部にはあるやに聞いているが、上記の評価はどのように考えたらいであらうか、私の考えでは高専教育出発当時の目標であった、高校と大学との重複を避ければ、この程度でもいけると考えた当初の目的は果されているように思う。高専では外国語の時間の少ないことも目立つが、工学部教官の多くの印象では、大学生の語学力は入学時が最高で、専門に入るころは大部低下しているというのが普通である。このことは教室における授業時間数は、かならずしも決定的なものともいえないのではなからうか。よい学園の環境のもとに、各自がそれぞれの時間をどう充実させたか?これが基本的な問題であらうと思う。もともと人間形成は一生の問題であるし、諸君がそれぞれの立場で、体験を基礎にして教養を積むことは、人間として

の最大の生きがいでないだろうか。

8-2 2項高専卒業生の学力評価はあまりによいので、調査者が高専教官であるためでもあろうかとさえ考えたが、しかし1~2回の卒業生が社会に出たころ、同僚が諸会社の首脳と会談して帰った後に私に語った言葉を思い出した。「大学は今後大学院生の養成に力を尽さない、学部卒業生養成では、大学の存在意義はなくなるのではないかと」と。したがってこの調査結果は素直に認めて、その理由を考察してみよう。

大学におけるカリキュラムは各個ばらばらと違ってよいが、大部分の工学部の専門履習時間は1,680~3,160時間くらい、2,200時間前後が多いが、高専では3,570時間である。前項で述べたように履習時間の多少にのみ、教育効果を結びつけることは適当とは思われない。次に考えられることは実験実習時間の問題である。大学では最も実験実習を重視する工業化学科でも850時間くらいであるが、高専ではM科1,365時間、E科840時間、C科1,190時間である。技術者教育における実験、実習の大切なことは多くの異論はないと思う。しかも高専の特徴である低学年から実験、実習をしていくことには特別な意味があるように思う。高専卒業生の意識調査結果によると、中学卒で専門を決定したことに対する評価は、あまり香しくはない。しかし高専後決定すれば適確に定められたであろうか。大学に2~3年在学後に方向を誤ったと考えて、退学するものも数%あるのは事実です。20才過ぎてからの技術教育は遅すぎるという強い主張もあることですから、この問題は更に将来検討してみたいと思う。

8-3 最近における学力低下の問題

静大工学部在学中「建物が立派になると中味が悪くなる」ということを度々聞かされた。戦災に残された兵舎を改造した教室、実験室で学んだ諸君には、社会に出てよく重責を担って活躍している方が多いことをさすらしい。また「新設の学科の初期卒業生には優秀な者が多いが、だんだん平凡化するものだ」ということも聞いた。高専にもこの傾向が現われているのであろうか。教育には建物設備の充実も重要ではあるが、教官はもとより、学生諸君の盛んな意欲が、さらに大切なものなのであろう。いずれにしろこの項の結果は、将来のために充分反省の資にしたい。

8-4 4項は5項と比較すると、初任給のように見えるが、それではe項は論理的に適当でないように思われる。卒業生が社会に出るようになって5年余を経た時点での調査にもかかわらず、まだ高専卒業生の処遇のしかたは定着していないように見える。就職斡旋の先生がたは、卒業生の処遇のしかたにまで企業側に要

望しているにもかかわらず、このような結果になっているのは、一つの制度が社会に順化するには長時間かかることを改めて考えさせられる。この意味において、卒業生諸君は、すべてこれパイオニアというべきであらう。

8-5 5項は学歴社会における諸君の将来を展望するものである。5-aとb項で過半数を超えているが、日本の現状ではa+b項を100%にすることが高専側の目標であらう。前にも述べた高専卒業生の意識調査結果によると、学力が同等で、同様な責任を分担しているにもかかわらず、大卒に比較して給与が低いことに伴う不満が非常に多い。そしてそれは日本が学歴社会であり、年功序列制の積弊のためであると考えている。我々がaとb項を目標にして将来も努力しようとすることも、社会のこの実態に即してのことである。しかし自由社会において企業は繁栄し、生き抜かなければならないのであるから、実力のある技術者がいつまでも認められないということは考えられない。既に学歴社会の崩壊のきざしは各所に現われているし、年功序列制も種々の変形がはじまっている。卒業生諸君はパイオニアとして苦しみ、不安を感じている方も少なくはないと思うが、将来に希望をもって、地道な努力を重ねて頂きたいと思う。

8-6 6項は長所、7項は短所の指摘である。ほぼ同数の項目から3個以内で選択された結果であるが、6項を選んだ企業が、7項に比較して非常に多いことが注目される。高専教育の成果の一つと見てよいと思う。7項について大卒と比較すれば、ほぼ同様な結果が出るものと予想される。しかし他者からの正当な批判は素直に受け入れて今後の教育に生かす心構えが必要なものと思っている。

9 結語

以上取上げた項目についての調査結果の概要と、それに対するコメントとを述べた。

統計的調査は総括的知見であるから、諸君のおかれている個々の実情とは必しも対応はしないであらう。今後学校における一つの資料として意味があるように思う。しかし諸君の個々の事情とは一致しなくとも、高専卒業生一般に対する社会的評価として考えれば、何等かの参考になるものと思って書いてみた。

与えられた時間が極めて少なく、構想を充分練ることも、書かれた文章に対する推敲も充分ではないが、約60ページにわたる調査研究報告書に対する私の中間所見と考えて頂きたい。

1974, 11, 25記



海外紀行

米国機械学会に参加して

機械科 教官
機械科一期生 柳下 福蔵

米国機械学会(ASME)に投稿した私の論文が学術的研究として評価され、会報に出版されることになり、学術講演発表の要請を受けました。これがため、学校当局の御協力のもとに米国機械学会の会議での講演と米国の大学訪問を目的とした、私の努力と念願が実現したのであります。日程は10月2日より14日までの12日間ではありましたが、この間天候と健康に恵まれ私にとっては有意義な思い出となりました。

学会はニューヨークの中でも最も賑やかで最も交通の便のよいところにあるステイトラ・ヒルトン・ホテルで6日から9日まで開催されました。米国の機械学会ともなりまして、さすがに国際色豊かで米国人はもとより私を入れて日本人4名の他に、ソ連・ポーランド・イギリス・インド・イスラエル等、講演者だけでも約60名ぐらい見受けられました。



私の講演日は8日

約25分間の英語での講演でしたが、専門的なことともなりまして聴衆には理解していただけられず、4人の先生から学術的にかなりつつこんだ質問をうけ、何とか答えることができ質問者のうなづく顔を見た時には我ながらホットしたものでした。

講演が終り、審査員からあなたの論文は、goodだとい



会議に参加する前にイリノイ州立大学とオハイオ州立大学を、会議後にはニューヨーク・シティー・カレッジとマサチューセッツ州立大学を訪問しました。これら三つの州立大学はいずれも米国内でもキャンパスの広大なことで有名らしく、特にイリノイ州立大学は町の中に大学があるのではなく大学イコール町全体という感じがし、日本に住む私にとっては少しばかり羨しく思いました。イリノイ州立大学とオハイオ州立大学では特に機械関係の実験室・研究室を見学させていただきましたが、両大学に共通して言えることは、科の中が設計を中心とした組織になっているということであり、機械関係の実験・研究は全て良い設計をするためにあるのだという精神で貫かれているようでした。後に聞いた話しによりますと、米国の機械学会には2~3年前から全体をシステム化して行こうという動きがあり、このように大学で設計を中心とした組織をとっていたのはその現われの一端だったのでしよう。

ニューヨーク・シティー・カレッジだけは町の中の大学のためか、他の州立大学とは異ってキャンパス中建物でいっぱいという感じがし、外見は日本人の大学と似通っている点が見受けられました。この大学は電気・電子及び化学部門が盛んな様子で、機械部門には特に印象に残るところがありませんでした。

最後に訪問したのはマサチューセッツ州立大学でした。幸いにも、東工大から林先生が留学しておられ、アムヘ

スト空港（ワシントンから飛行機で約1時間位のところにある田舎の空港）まで出向えを受けました。当地は紅葉が盛りで、空港から大学までの林先生の車で約2時間のドライブは大変素晴らしいものでした。明け方には氷がはり、日中は20度位まで暖かになる当地の気候が紅葉の色を日本では見られぬほど鮮やかな紅にしているのです。今でも私の脳裏にくっきりとあの色が浮びあがってくるほどです。

同大学は北大のクラーク博士のおられた大学らしく、伝統的に農学部が盛んな様子で、馬、牛、ブタ等の広大な牧場やサイロ等があちこちに見受けられました。キャンパスが広すぎるため、林先生の車で半日の案内でも不十分なほどでしたが、ほどほどに切り上げて午後には

は学部長及び機械科長と技術教育について話をしました。学部長は高等技術教育についてかなり深く研究している様子で、日本の工業高専制度に強い関心を示しておりました。米国には、工業高専はかなり以前に存在したようですが現在はなぜかいない様子。技術者が増加しすぎたためなのでしょうか？しかし、学部長は個人的には工業高専制度は大変良い技術教育制度だと考えているようでした。

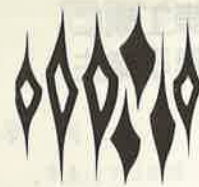
以上短期間ではありましたが、貴重な体験を通じ、印象に残りました事柄の一端を述べさせていただきました。

なお、先日当学会より会員になるようにとの光栄ある勧誘状をいただき、今後ますます教育と研究に励まなければと自覚を深めている次第です。



おわび

前回送付しました「同窓会だより3号」の昭和49年度同窓会役員名の内、工業化学科の顧問教官を川松俊治教官と掲載しましたが、村松宏司教官の誤りでしたので訂正させていただきます。



職場における高専生

東芝機械における 高専卒業生の現状と将来予測

機械科第1回生 木の内倫弘

現在東芝機械には高専卒業生が20数名（そのうち沼津高専は10名）就職しているが、私を含めて現状の報告と将来の動向など少し述べてみよう。

まず最も気になる待遇問題であるが、現状は大学卒業生と単純に2年の年齢差が存在するのみである。しかし寮とか入社後の教育とかは全く同じ条件である。即ち寮生の場合には満年齢22歳以上もしくは大学卒業生でなければ個室は与えられぬのが、高専卒業生の場合は満20歳で個室を与えられるのである。これは全く高専卒業生だけの特権と言えよう。

次に昇進であるが少くとも現在までは大学卒業生に2年着で続いているようである。つまり、同じ年齢の大学卒業生とは全く同じクラス、同じ給料をもらっているのである。このように書くとも東芝機械はまことに結構な会社のように見えるが、さてそれでは将来はどうかと考えると、必ずしも手放しで喜んではおられないと思う。まず最近3～4年は入社試験も大学生とは別に行なっているようであるし、待遇も悪くなるだろうという声はちらほら聞かれ始めた事である。具体的にどうこうということはまだ何も無いが、何とはなしに気になる昨今である。

次に仕事の面からみると、各人の能力、個性等あって一概には言えないが、専門分野は比較的皆良く勉強したようで、遅れをとることはないが、やはり一般教養、特に語学力の不足は頭の痛いことである。しかしながら日常の業務においてはまずまず差し支えなく、普通に仕事をこなしていると思われる。又それに対しての会社の評価もまあまあ適当と思われるのであるが……。

さて、それでは高専卒業生の人格はどうかというと、これもまだ卒業生が少ないためはっきりした事は言えぬが、どちらかと言うと、人間的な大きさ、包容力といっ

たものに欠けていると思う。もう少し余裕というか、清濁合せ飲むというような大きな気持がないと将来に過剰を残すことにならないとも限らないだろう。

それから真面目で仕事一筋なもの良いが、もっと個性を持った方が良いのではないだろうか。せっかく高専という新しい制度の卒業生となったのであるから、もっとこの立場を利用し自分の人生をかけてみるような気持が欲しいものである。又ものを見る目を大きく開いてもらいたいと思う。一つの事に対して、上からだけ見るのではなく、常に下からも横からも見るという大きな視野、考え方を持つべきであろう。そしてその為にはいろいろな本も読み、いろいろな人ともつき合い、時には無駄と思われる事もする必要があろう。井形校長の遺訓にもある通り「人からの良い人間」になりたいものである。

それでは次に我々の将来はどうなるのか、或いは我々はどうしたら良いのか、という問題についてであるが、率直に言って今のような結構な状態が続くとは思われない。もっともっと厳しくなるであろう。特にある時点からは、はっきりと待遇をおとすことは明白であろう。それはなぜかと問えば「君達の実力が落ちているからさ」という答が返ってくるであろう。こういわれたらもはや反論の余地はない。それではそういう事態に対して我々はどうしたら良いか、というと次の事に要約されるだろう。つまり我々の実力を会社或いは広く世間に示し、相手にそれを認めさせ、それ相応の待遇を求めるとは思われないだろう。何故ならば実力なくしては何を言ってもしよせん大の遠吠えであり、世間はそんなに甘くないのだから……。

高専卒業生もまだやっとならば8年目を迎えたばかりです。我々の将来は我々の努力次第で大きく、明るく開けてくるはず。全国津々浦々に散った同窓生諸兄よ、共に明日の発展を祈りつつお互いに頑張ろうではないか。そしていつの日も次のひとは常に心のすみに置こうではないか。「人からの良い、優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ」

沼津市大岡字太田2132-1
東芝機械高田第2 太田寮

電業社だより

M1 大沼一彦

私と奥田が沼津高専の一期生として希望に燃え、電業社に入社してから早や8年目を数えるに至りました。その時の高専卒の同期としては、他に都立1名、函館1名がおります。

都立高専は沼津高専より二年早くできていたので私共が入社した時は、都立の1期生1名、2期生1名が既におりまして、同じ高専卒ということから入社早々その2名から歓迎会を開いてもらい非常にうれしかったことが今でも印象に残っております。この歓迎会は以後伝統みたいなものになり、現在までこの高専卒者が入ってきた場合でも全員集って行なっております。

南は鹿児島高専から北は函館高専までいろいろな高専の卒業生が入社してきますが、そのほとんどが設計部に配属されているのが現状です。

現在では高専卒者の数も相当に増えてきており、各人が責任のある仕事を任されておられ、中には海外プラントのポンプ設計担当者として現在海外出張中の者もいます。沼津高専出に限って現状を概略説明しますと、私と間野が原子力発電所向ポンプの設計部門で、奥田と谷城が送風機の設計部門で、武田（静大工学部経由）と石橋がプラント設計部門で、跡部、市川、飯田が各々最も得意とする分野のポンプ設計部門にて、がんばっております。高専卒者の初任給は大学卒と短大卒の間です。仕事面は学歴よりむしろ実力に応じていくらでも力を発揮できるようになっていますので非常にやりがいがあると思います。

最後に、将来続々と卒業され社会に出てくる後輩と、又我々自身のためにも一生懸命がんばりたいと思います。

(文中敬称略)

〒410-23 田方郡大仁町守木92

☎ 0558-76-1817



トヨタ自動車工業における高専卒業生

C1 大沢幸一

現在私は、トヨタ自工に勤務しています。

以下トヨタ自工における高専卒業生を大卒と比較してみたいと思います。(我々高専卒が大卒と自身を見比べてしまう心情は、又それだけで一つのテーマになると思われませんが、今回は深く考えないことにします。)

企業には人事秘というものがあつて、学歴・功績から生ずる待遇、あるいは昇給昇進については明らかにされませんから、私が述べることは自分の体験です。しかもたった3年半の。

46年4月に新卒入社しましたが、同期入社に大卒(院卒も含む)約400名(技術系300名)、高専卒約100名がおります。入社当初大卒は約7ヵ月高専卒4ヵ月の入社教育がありました。大卒・高専卒の3ヵ月の差の内訳は、ディーラー実習(車の販売会社に出向し、実際に車のセールスを行なう。)2ヵ月、現場実習(車の生産現場そのものに入る。)1ヵ月です。この差については教育担当者が、年齢が異なるためであり、学歴の差ではないと説明したと記憶します。私が入社した前年度の教育ではさらに1ヵ月少なかったのですが、それ以前の高専卒業生の抗議があったと聞きました。

これはその当時の担当者から直接聞いた話ですが、43年初めて高専卒を採用した際大卒と同じ試験問題で試験したところ旧帝大に次ぐ成績の卒業生もいて、金の山を発見したように感じたそうです。もっとも私のような5期生ともなると大分レベルダウンしていますが、このレベルダウンにより当然会社の高専卒に対する評価は変化しているはずで。

同年令の大卒が去年入社し、今年の賃上げの際高専卒との間に約千円の差がありました。又、昇進においても私より2年先輩では1ランク差があったようです。

以上の現実をじかに体験し、その当初考えこみました。しかし、一方には旧制大学と高等工業の差、あるいは高専卒と工業高校卒の差があるという現実があります。又人事管理において人物を評価する場合、人間が人間を評価する勤務評定と比べて学歴はある面ではベターだと思われまふ。このように現在は考えていますが、結論ではありません。この先何年かかけてじっくり考えていこうと思っています。

同窓会誌によせて



旧 教 官

近 況 報 告

岸岡英太郎

沼津を離れて二年半、北陸で三度目の冬が間もなく訪れようという昨今、私は数年振りやや体調も良くなって来ました。血気盛んな同窓生の諸君は張切ってそれぞれの道にご精進のことと存じます。いま私の生活は、まず月曜の九時に眠気覚まし流体力学の講義から一週間の幕が開きます。先年こちらの教養部で半数も留年者が出たあおりを食って、今年の受講者は化学工学科生まで含めた160名もが殺到、すし詰めの盛況にはいささか閉口の態です。たぶん、その内脱落して、どれだけ残るかがみものですが……。

毎年後期になると、四年生はほとんど卒研とゼミナールだけになりますので、この頃になると、実験室は大分にぎやかになって来ます。必ずしもやる気十分の人ばかりではないので相変らず彼等の尻を追わなければならぬという苦勞は小中学生相手と大差ないように感じられます。もっとも、大学院生はずっと大人ですから、彼等を相手にする時は実験結果のディスカッションとか有意義な仕事に時間を費せる楽しさがあります。

研究というもの、筋書どおりすらすら進展するものではありませんから、うまくいかなければさらに、あの手この手と繰返しアタックすることを教えています。よく教官の集ったときに議論するのですが、現在の新制大学というのは、もちろん時代の差もあって昔よりは学問も分化され、多様化しており、科目数も増えてはいるものの、修士課程修了者が昔の学部卒業なみの力に匹敵するかどうかという見当で見えています。大学院入試問題など、その点を考慮に入れて適当な出題をしているのですが、その成績から見ると、ひいき目に見て前記のよう

な学力評価に結着するようです。

ですから、もはや大学院といつても、あまり過大な期待をするのは無理で、精々基本をしっかり堅めて世に出すぐらいに考えたらいと見ています。けっきょく、学校というのは就学年限のわく内で修得事項をできるだけ吟味し、最少限を確実に摺り出せることを第一義とし、いたずらに手を上げた砂上樓閣的な教育は無意味だという私の持論に誇りが無いと思います。

今年は、選挙で学科主任に当てられてしまったので一年間だけは奉仕の精神で雑用処理をやっています。私の方は機械系10講座に対し、1講座当り250万ほどの予算を融通しあって、インフレ狂乱時代を切り抜けていくのは苦心を要しますが、年度末に赤字が出なければ幸だと祈っています。着任当時調べたら私の主管する講座は300万円余の借金があったので、当面は年々50万づつ返済するのに追われており、できるだけ金のかからぬ研究を選んで地道にやるのも致し方ないといながら不本意千万でにががしい限りです。

私の研究室の活動内容をちょっと紹介します。軸流送風機の回転翼列の実験をずっと続けており、今年はスウィープのある翼列を取り上げまして、そろそろ結着をつけたいという段階、それから固液二相流の研究をずっと前から続けている人がいますのでそれを督励しているのですが、実験が手間を要する割に進展のはかばかしくない仕事、しかしやりかけた仕事はなんとしてもやり抜くようにと続けています。つぎに、油圧実験室で私の来る前から続いていたペーンポンプの研究—可変流量形の高圧高速化のための基礎研究これは特殊な滑り面の摩擦の問題とか、局所的なキャビテーションとか高荷重の軸受の問題とかいくつもの単一研究を総合した仕事で担当者の辛抱強い努力が要請されるものです。最後に、私の直接やって来た仕事は三つあるのですが、その一つは前任者から引継いだ揺動翼の研究、これは昨年度までに2年繰返し推進効率の計測を実施してどうやらデータが堅まったという段階、従来外国で理論的に予言された値が実用に合わないことを確め、今年中には実物実験でだめを押した上、来年ぐらいに発表の予定、つぎは気流二層流

に関する特殊な実験でいま若い研究者に拍車をかけてもらっており、来春までには一応結着の予定、もう一つはこちらの大学紀要に出した3篇の理論研究で近く英文の一篇に組みかえて外国雑誌に投稿するもの、等々。

以上の進み方を反省してみると、学生の実験データに依存する限りは2年でも不十分で、3年ぐらいやるとデータの信頼度が堅まるのでようやくメドがつけられるということ、既に先般還暦を迎えた私の立場は若い人に業績を挙げさせるよう誘導するのが最大の任務ですが、正直に言って北陸の人は、ガムシャラな人もいるが、一般に温和過ぎて生活を楽しむというか趣味やリクリエーションと両立させようという人生感の持ち主が多いので仕事スピードに運ばない感じを強くします。

私は戦後長く沼津に世話になった者ですが、やはり一番の魅力は霊峯富士の下に開けた美しい自然でした。そこで学んだ諸君は将来どこへ行かれても、終生楽しかった思い出は忘れられないだろうと思います。私は故井形校長に呼ばれて当時高専というまだ文部省の机上に積まれた青写真だけだった学校の機械科に関する限り、私なりの解釈で形のあるものに持っていく仕事をやった者ですが、後日出来てからの姿を見てはいろいろと感慨深くその生い立ちを回想したものでした。しかし、それ以上に、これからどういう風に育てていくのか大に関心が持たれます。最近、科学技術大学院も発足が決まって、3300人も修士を量産するとか。

大方の人びとは、新構想の職業訓練学校の成立を、かって青写真から高専を作ったときのことを想起しながら、じっと注目しているようです。

最後に、陽春四月十日から十五日の間ぐらいは、私の住居は桜花に囲まれてパラダイスのような環境になります。もし、当地にご来遊の節はお立寄り下さい。皆さんごきげんよろしく。

近況・随感

木戸義一

年を追って、基礎も固まり、その上に大きく築き上げられていく沼津高専発展の様子がわずか半年の間にも目に見えるようです。遠くはなれていますが、矢張り忘れられない学園です。

私は4月1日付で退官、沼津の地を去り、郷里に戻りました。上野から特急で3時間で福島に着きます。普通列車に乗り換えて、三ツ目が桑折（こおり）です。駅から徒歩7分。桑折町役場の南隣りに当たります。桑折につ

いてミニガイドを申し上げておきます。

今から785年の昔、伊達家の始祖朝宗は、源頼朝の軍に従い平泉を征めたときの軍功により、恩賞として伊達郡を与えられ、伊達家を名乗った。以来、桑折西山城（高館山）を本拠として15代晴宗まで360年間支配した。初祖朝宗（満勝寺殿浄光念西大居士）の廟所が桑折町宇万正寺にある。晴宗のとき米沢に移り、その後仙台に移った。伊達政宗は第17代である。城跡高館山は、私の家の西方、目の前に立っている。その後方には、特徴のある形で半田山が聳えている。日本最古の銀山跡がある。桑折はまた、芭蕉の奥の細道の道すじに当たっている。近くの方円寺には“風流のはじめや奥の田植うた”の句碑がある。また隣の飯坂には、医王寺（源義経の家来佐藤継信、忠信兄弟の墓がある）に“笈も太刀も五月に飾れ紙幟”の句が残っている。穴原、天王寺、飯坂の各温泉を通して摺上川の清流が阿武隈川に合流して、家の東の方を流れている。山も川も、本当になつかしく、美しく見直しています。

めぐり来て いまふるさとに 還りけり

なつかしき山 美しき川

家の北方100米ほどのところに名利無能寺がある。明治14年8月10日明治天皇東北御巡幸の際、この寺にお休みになり、樹令300年の美事な老松をご覧になられ、宮内大輔に松の名を命ぜられ、大輔は“御蔭酒松”と書しおほきみの みかげの松の 深みどり

夏も涼しき 色に見えつつ

と和歌一首詠じた。随行の木戸孝允公は、学問奨励の思召で小学校に“釀芳”の名を与えられ、現在の釀芳小学校となっている。

桑折から東北本線で北上、一時間で名取駅につく。ここに宮城高専がある。通学可能な距離で当町からも何人か通学している。福島高専は県内とは云え、いわき市にあつて大分遠くなるが、寄宿舎があるので、そちらにも何人か入学している。どちらの高専も矢張り評判よく、学生はまじめで実力があるということです。私の義弟の子は宮城高専に在学しています。

いま、私は週二日、福島に講義に行っていますが、そのほかは専ら晴耕雨読。畑も40坪ばかりのところを作っています。種子を蒔いて水をやって追肥を施して、一生懸命やっています。お蔭で、馬鈴薯、キャベツ、豆、とうもろこし、なす、きゅうり、カリフラワー等々。次々に新鮮なおいしい野菜を味わっています。種子は発芽率が90~80%、発芽したら適当に間引きます。間引かれて捨てられるのは可哀想にも思われますが、よいものを育てるには止むを得ないでしょう。残した苗を育てるにも、除草してやったり、土をかけてやったり、必要な

水、肥料を適当な時期に適当な量与えなければなりません。枯れてから水をいくらやっても駄目です。人間を育て教育する場合はどうだろうか、こんな事を考えながら畑仕事をしています。

沼津にいたとき、学校の附近は苗木の産地でしたから苗を育てる風景がよく見られました。種子を蒔いて芽が出て苗ができると、丈夫なよいものを残して、弱そうな苗は抜き捨てられました。私は何本かそれを拾って玄関前に植えました。小松の苗でした。二本はすくすくとのびて十年後には軒より高くなりました。

植えてし 小松の苗も 伸び立ちて

富士の高嶺を 垣間見るかな

ところが一本だけは、どういものか曲りくねって上に伸びません。然しこの方が形が面白い。手をかけたら庭木に仕立てられるという人がありました。沼津千本松原の松も、それぞれ風雨に耐えた姿で、一本として同じものはありませんが、それで面白味もあるということ思い出します。

それぞれに 姿は変れ 千本の

松のみどりは いやまさりけれ

人間先づ根をおろすことです。それからSelf help 自からは自からの手でやりぬいて見ることでしょう。その間、よい友を得、よい伴侶ができて、よい協力者が得られるならば、そこに楽しい幸せな人生がひらけてくると信じます。

同窓生の方々のご活躍、ご発展を祈っております。

(S. 49-10-30)

御 礼

木戸義一

この春、定年退官に当りましては、同窓会から多額のご餞別をいただきましてまことにありがとうございます。記念になるものを求めて永くご芳情を偲びたいと存じます。

誌上をかりまして厚く御礼申し上げます。

新住居は下記の通りです。ご出張ご旅行等のお序の節には何卒お訪ね下さるよう楽しみにお待ち申し上げております。

〒969-16 福島県伊達郡桑折町桑島2-1-4

TEL <024582> 3944

尺 度

東京高専 吉村靖夫

沼津高専をはなれて、もう8年足らずも過ぎてしまいました。昭和40年の春、高専の近くに借りた下宿についたとき、例の春先の強い風で、あたりが土けむりのようなもので覆われ、息がつまりそうに感じたことを覚えています。「こりゃ、大変なところに来ちゃった。これから、どうなるんだろう」と不安に思ったことは事実でした。

——それから2年後、いまの東京高専に移りましたがこの2年間は私にとって、これまで、もっとも勉強になった時期であったと思います。高専が創設されて間もないわけで教職員も学生も、それだけの自覚をもって仕事に勉強に励んでいた姿に、当然のことながら、現在においては見られない強いものがあつたと思います。いま思い出してみると常識知らずで無茶なことをやったり、失敗も多かったけれども、それだけに私なりに若さのエネルギーを発散したように思います。

同窓会長の方から何か書いてくれといってきました。それも、いまの家内と沼津にいたときの思い出話を1つとやら、多少、意地の悪い要望でした。子供が既に2人いて、何もいまさら……なんて思いながら家内に話したら「そういうのは適当にしておけばいいのよ」という明快(?)な返事、これに従うことにしました。方法と経過については、かわったことをしていたんだろうなどと期待する方が無理というもの——残念デシタ。ただ、性格というか、育った環境のためというか、交際を大びろげに堂々とやるというような感覚は持ち合わせないので、沼津や三島近辺と一緒にうろうろ歩き回るようなことは少なく、専ら、休み等のときは山等に行っていたと記憶します。それでも、時々、学生に会ってしまい、「ニヤ」として、その場をすましていました。

東京高専では現在、機械力学、工業力学、振動工学を担当しています。この他に機械設計製図や工学実験、卒業研究等に加えて校務分担が加わるのでかなり、きつい時間割です。このようなことは高専教官については一般的な傾向です。ところで、つい、日常ノルマ的なことで追われていると、いい本を読みたいと思うことがしばしばあります。誰もが、そういうものではないかと思えます。何か、こう、気持ちが乾いてくる感じがして、そのまましておく自分狭く、小さくなっていくように思えてくるのです。そんなときは、特にどんな内容のものを選ばず、手近にあるものを読むという次第です。文

学的センスのない私のようなものでさえ、このようなことがあるのですから、読書が趣味だなんていう人は、そんな時どうするのだろうか。時間ができたら、ゆっくり本でも読もうなんて考えていたら、いつまでも、そんな時はこないのだろうか、やはり自分でそういう「栄養補給」の時間を作らなければならないだろう。

我々、技術に関係する者自身が時にして気がつくことは、日頃の物事に対する見方、表現の仕方がとかく数量的であることではないだろうか。何かいつも、自分の経験とか知識をもとにした尺度を持ち出しては、「数」で処理しようとするわけである。私はこのような習慣は技術者としての長所位に実は思っている。妙な言い回しや意味深い表現や、右かといえば左というような説明の為に、結果的には、なんだかわからなくなっていたり、疑いや不信感をもつことになってしまうことが、いかに多いか誰もが経験していることである。言葉や文章で表現することの方が、数字や関式を使って表現することよりも、重みがある妙な悪習が強く、わかるものもわからなくなってしまう。ところで先にのべた尺度だが、もともとは絶対のものでありえない。とかく自己中心で主観的なものになりやすい。尺度が適当である為には、それがより一般的であることが望ましい。数で示そうにも示せないもの、そんな事象がたくさん複雑にからみあって、ある1つの尺度ができてくるとすれば、これが一般的な尺度といえるだろう。その意味では、平常、数を扱うことの多い技術屋の場合は、一般性に欠けがちな傾向があると思う。文学だけではなく、こういう方面には絶えず接触しようとする努力は忘れてはならないと思う。

東京都八王子市散田町2
東京高専宿舎

沼津を思い浮べて

深尾保

静岡工業学校に7年、浜松高等工業学校・静岡大学工学部に22年、沼津工業高等専門学校に10年と、静岡県内を次々と移り、昭和47年3月末沼津で退官しました。

沼津高専では、開設当初から校長井形厚臣先生のもとに創設の仕事に当たっていました。何分新しい学校制度のこととどうやっていいのかわからないことばかりでした。その間には幾つかの思い出がありますが、私にとって今思い出しても嬉しかったことは、昭和40年11月2日の落成式の日のことです。式も滞りなく進んで愈々閉式の辞を述べる時が来ました。式が進行し、来賓の方々

の祝辞を拝聴しているうちに、私は今ここに沼津高専のあるということには、如何に多くの方々の並々ならぬご尽力のあったことか、誘致運動・寄金集め等等、身にしみて次々と思い浮かべておりました。私はこれを心にとめて閉式の辞を述べ、深く頭を下げました。終って壇を下りようとした時、万雷のような拍手を背にして私は言い知れない深い感銘に打たれました。私にとって一生の思い出となったのです。

全国の高専のうちで、当時昭和45年頃の資料によると、文部省の委員会に委員として出席された先生方の数は沼津高専が最も多かったのです。この点からいっても沼津高専は日本一だったといえるのです。こういったことは報道・放送等で、例によく取り上げられていることでも明らかです。(例えば昭和49年10月20日・NHK TV 教養特集「技術教育の課題・工業高専の10年」)。私も沼津高専在任中文部省の委員として毎回出席しました。昭和37年には、高等専門学校教育課程の標準(試案)(昭38.3)の作製、昭和42年には、高等専門学校教育課程の標準(試案)の改訂に基く高等専門学校教育課程の標準(昭43.3)の作製及び商船高等専門学校教育課程の標準の作製同じく工業高等専門学校施設設備の標準・改訂版(昭42.8)の作製、昭和44年には、電波高等専門学校教育課程の標準(昭44.7)及び電波高等専門学校施設設備の標準(昭44.7)の作製と殆んどすべての委員会に参与しました。当時としては高専教育に最も深く関係した一人です。これらの会合においては高専の教育や施設設備について折を見ては現場の事情等諸々進言したことがありますが、それらが次々と実行に移されてゆくのを喜んで耐えませんでした。

退官後は一旦御里の静岡へ戻り、ついで昭和47年12月現在の所に転居しました。ここは新横浜駅から横浜線で4つ目の長津田駅で田園都市線に乗り換えて2つ目の青葉台駅下車徒歩約15分の所です。東名高速道路にも近く又国道246号線は青葉台駅のすぐ南側を通っています。「こどもの国」へ歩いて約40分の多摩丘陵の中で、林の中では小鳥もよくさえずり、6月になるとすぐ近くの林でホトトギスが聞かれます。

昭和48年11月頃から当時の写真等を整理しています。開校当時から落成式の頃まで、校舎の建築状況、寮生活の模様、遠足の光景等々何れもなつかしいものばかり、何れ整理のすみ次第、学校か同窓会で保管して頂くよう、お届けしたいと思っています。

来年は齢い古稀を迎えます。若い同窓生諸君の限りない友愛とはえある前途に幸あれと祈念します。

(昭49.11.1)

横浜市緑区松風台24-45

思い出すまゝに

安土幸一郎

先ず始めに自己紹介を致します。私は沼津高専が現在の地に移転しました昭和38年4月から、第1回の卒業式が挙行された42年3月までの4年間を機械工学科の教官として勤務した者であります。またその間、40、41年度と寮の運営にも参加しましたので、第5回までの卒業生諸君とは何等かの接触があったこととなります。その後豊田高専に転任致しまして現在に至っております。

在職中の4年間、学校は年毎に人的にも、物的にも着々と充実してゆきました。しかし学校周辺の変化は微々たるもので、雨が降れば道は泥沼となり、風が吹けば空が褐色になるほど砂ぼこりの舞い上る状態でした。

その後の数年間に、道は舗装され、森は切り開かれ、小川は埋められて立派な宅地となり、学校周辺の変化の大きいのは、年に何回か沼津高専をおとずれる私にとっても驚きの一言につきます。このような発展的变化は喜ぶべき現象ではありません。しかし私にとっては思い出の一つ一つが破壊されてゆくさびしさを禁じ得ません。卒業生の諸君の中にも同じ思いを抱かれる方が何人かはあると思います。

乏しい体験からではありますが、創立頭初の学校にとって最も重要なことは、よき校風を速かに樹立することにあると思っております。教職員のみならずみならぬ指導、助言のもとに、学生諸君が耳を傾け、全校協力一致してはじめて達成されるものです。

沼津高専はこの難事を美事に果し、立派な校風が確立されました。そして今、この全校一致して立派な校風を樹立されたムードが、同窓会設立と言う難事をも立派に達成され、盛大な総会がたびたび開催される結果となり、さらに完備された名簿の発行ともなりました。

同窓生諸君、諸君は創立頭初の在校生としてよき校風を樹立され、今また立派な同窓会を設立されました。今後はこの精神をもとに諸君の作られたよき校風をますます発展させられるよう、側面から援助されることを願ってやみません。

私はこのようなよき学校に四年間在職できたことを嬉しくまた誇りに思っております。

当地にまいりましても、近くに就職された方ですぐ下さった方が何人かありました。遠近を問わず機会がありましたらたずねて下さい。そして創立頭初の思い出話をしたいとす。最後に貴重な紙面に拙文をのせて機会を与えて下さった関係各位に厚く御礼申し上げます。

げます。

〒471 豊田市栄生町2-1
豊田高専職員宿舎

教官

十年一昔

開校記念日漫談

市川良輔

(その一)

開口。

第三代校長樋口泉先生ご就任にいたって、正式に「開校記念日」が制定されました。創立後十二年目の、もちろん「四月二十日」であります。これは同窓会諸君もきっと共感と協賛を寄せてくれることと思います。

その記念行事として何がふさわしいかということでしたが、とりあえず今年は開校当時や初期時代のこともを現在在校生に話せということで、「記念的全日休業？」を主張したばかりの願いはムザンに破れ、加うるに、こともあろうにその責が一期教官としてのぼくなどに廻ってきました。ともあれ、第一回の記念日には朝比奈氏とぼくが体育館の演壇に立たされ、親愛なる全学生諸君は、いと神妙？に、そのかみの実像虚像にしばし耳傾けざるを得なくされて、お気の毒でしたが、まことにさいわいなことに、学校のはからいでこの日は全員に記念の紅白の菓子餅がくばられましたので、これに多少は気をよくして終ったかと思えます。

さて、ご奇特な仁？もあって、そのときのぼくの迷談話？を、知らぬ間にテープにとって、ご丁寧にも呈示されたのであります。そこで、我ながらきざな仕儀ですが、まあ同窓生諸君が、いさ、かなりとも往年を彷彿するよすが？にでもなればとて、この誌上いま筆録再現してみようと思立ったわけです。がまんして読んでいただければ、しあわせという次第です。——

◇

◇

開校記念日でお互におめでとうございます。今日はあとからマンジュウだか菓子だか呉れるそうです。私なんかの経験では、こういうお祝いだとか記念日なんていうものは、貰うものを貰い、喰うものを喰ってからでない実感湧いて来なかったほうでして、どんなマンジュウか菓子かたのしみでもあります。諸君もちょっぴりそうではないかと思えますが…。

私は旧制中学の一年生のとき、母校の県立韭山中学が丁度開設六十周年記念式というのをやりまして、その記念式の数日前に学校全体の集会で生徒監の先生が、生徒へのお祝いはマンジュウにしようか記念の手拭にしようか、今からその希望をとるから、まずマンジュウの方がいい者は手をあげろなんて言うものですから、ハイなんて勢よく手を上げたんです。私は昔から背が低くて、その時は一年生でもあったので、前の方に並んでいたのですが、まわりの誰も手を上げない、うしろの方でくすくす笑い声がするので、変だなと思ってふりかえってみたら誰も手を上げていないんです。たゞ一人すみの方に剣道部のキャップで萩原さんという学校中で一ばんおっかなくて有名な人が、おこったような顔をして手を上げてただけだったんです。それ以来、記念式なんかには呉れるマンジュウだとか菓子には、私のこの積年の歴史的関心と興味があるわけです。ところがまあ今日はまだそのマンジュウがわっていない、マンジュウをわたす前、わたすまでの間に何かしやべらなくてはならないことになってしまいました。とんだことになりました。

今、前座で朝比奈先生から一寸紹介めいた話がありましたが、私も第一期の教官、といいますが、ともかく本校の開校のときからの教官のひとりです。この一期教官というのは朝比奈先生、私のほかに、岡田先生、野中先生、渋谷先生、三ツ井先生、大橋先生と、今では七人になってしまいました。いわゆるこの七人の侍、開校以来十二年ということですが、で、開校記念日が正式にきめられた第一回の行事として、つまり今日はとりあえずこの一期教官が開校当時の話などをしろということで、ま、その代表みたいなことにされ、と云っても、まあ、とりあえずの行事のエキストラみたいな役目が私に負いかぶさったわけですが、ま、命令には弱い元陸軍少尉ですから、仰せのままにここに立ちましたが、今もって何を話したらいいかわかりません。しかし、マンジュウへの時間つなぎに何かしやべらなくてはなるまいと思います。

最初に校長先生も言われましたが、われわれ一期教官として何としても印象がふかく、心に銘記されて忘れられないことは、本校が、つまり国立沼津高専が、いよいよ発足する、その創立開校の日に居合せたという感激であり、云ってみれば、どなたにも意気さかんであったことは、けっしてうぬぼれでもなく、自賛でもなく、真正銘の気持ちだったと思います。開校記念日にあたって一期教官として何らかの意義のある話をしろということならば、どうしてもこの開校—第一回の入学式のときの、感想なり様子なりを報告せざるを得ません。ですから、この意味で先ほど朝比奈先生もまず話されました。つまりこれは一期教官の共通の話題であるわけで、私が同じ

ことをくりかえす必要はないのですが私は国語の教師ですから、ちょっと文学的表現めいて、もう少し私なりの感想を申し述べてみたいと思います。

ともかく、十二年前、つまり時和三十七年の今日、時間も丁度今ごろ、開校式と第一回入学式が、あの金岡のボロ校舎——ボロ校舎と云いますが、私の表現からすれば、ボロ校舎では足りなくてボロボロ校舎、ボロボロボロ校舎、ウルトラボロ校舎、その板の間の教室で行なわれたわけでありまして。ただあの時は実によく晴れた、春らんまんといったいい日和で、この仮校舎のボロの建物の、屋根瓦のあたりにほのぼのとかげろうがたなびいていて、やはりあの北側正面に富士山がまっ白にくっきりと聳えていたのが、私にはとても印象的でした。そして、入学式にぞくぞくと集まってくる新入学生の誰もが、ま、多少は緊張と不安のためにおどおどした気配は隠せないものの、ともかく十五倍という競争率、難関を突破したという先入感だけでも、実に秀才然として利口めいた、ま、その時はたまたま純情可憐な、まじめきまわる顔付きに見えたものでして、その連中が入学式後しだいにどうなっていくかは、ここでは云わないことにしますが、ともかくその時はどの入学生もみんなきちんとした制服制帽、それもあの特徴ある角張った蛇腹のまっさらな帽子を一人残らず深々とかぶって、その帽子の真中ででっかい高専の記章が、ま新しく、しらじらと光を放っていたのが、実にリリしく感じられました。期せずしてそのとき、私の胸に浮かび口をついて出た一句二句、すなわち、「春風や帽章の文字しかと見つ」—「かげろうよ此処にも富士はまともなり」—まあ、ちょっとキザないい方ですが、私のような者でも、国立高専の開設開校の時から教官であったということには、ちょっと感激的な気持ちがある、その時はあったのでしよう。この下手くそな俳句が柄にもなくその日の日記に書きつけてあります。で、実はこのことはもう六、七年前、ちょうど一期生が卒業するときに自分たちで記念の文集を作るから私にも何か書けと云われて、調子づいて書いたものがあります。本校開校のとき一教官がどんな個人の感情をもったかということ、私個人に関してだけ一寸言ってみるという意味で、それをほんの少しだけ読み上げます。

「——春風や帽章の文字確と見つ。

三十七年四月中旬、開設入学式の日、春光駘蕩としてまことに好適な日和だった。金岡の仮校舎に集ってくる新入学生、否、第一期沼津高専生の一人一人の、真新しい学帽にほんのりといふし銅色にくすんで白い光を放っていた、あのでっかい校章の、ほんとうにまっさらな感触が、今日もまざまざと脳裡に残って、昨日のように

彷彿する。だが、あれからもう五年目が来ようとしているのだ。」

——これがまあ今日的に言えば、「あれからもう十二年目になる」ということになります。

「—かげろうよ此処にも富士はまともなり。

思いもよらず、国立工業高専の教官なるものに定まった。一介を教育にさらして十有余年、ある意味では、ぼくの人生にとって一区点一や、オーバーだが—となることかも知れなかった。だが、その思い新たな感激の日には、ぼくが斯うした運命の奇縁を得るまでの前任地と全く同じように、麗峰富士は此処でも真正面に仰ぎ見られた。晴れ晴れとした心に、云い知れぬ勇氣のようなものが湧いたのをおぼえている。だからぼくは、ゆくりなく故土を出でてまたふたたび曾遊のふるさとかえりめぐったような感激で、半生の教育という天職を、富士と共にすることが出来るのだ、と、あのときからひそかな自信をとらえ続けようとして来た。そんな一つの思もあって、もう五か年になろうとしている。——」

これもまあ今は、「そんな一つの思もあって、十二年なのである」というわけです。

で、これから先はまあ私がどうして高専の教官になったか、高専の教官はどういうものと思ってきたかという、全く私の個人的な事情を、一緒に開校入学式をした一期生に、ともに開校時に居たという事情関係から、告白したもので、一期生でない今の諸君に、一期生だけに共通の心情を話しても何にもならないし、話すべきではないからやめます。ついでにここで、誤解のないように一寸おことわりしておきますが、今日の話は、何も一期時代開校時代はこうであったのとか、あの時代はよかった、昔はよかった、それなのに、それに比べて今は、というようなことを、意識して言おうとしているつもりはありません。それは、ちょっとはそう云いたいこともあります。それは、ま、昔は昔、今は今です。私は一期時代開校時代のことだけを、出来るだけ客観的に純写實的に報告していくつもりですが、以前、たとえばこの十年誌でわれわれ一、二期教官の座談会を私が司会をさせられてやりましたが、ちょっと故意にそうとられた向もあるということをちらほら聞きましたが、もしそうすると、今日、一期教官に話をしろということはザンゾク？なことになります。ま、そんなことないとして、ついでにもう一寸だけ、話の続きをつけ加えますが、先ほど云いましたように、第一回の入学生の誰もが緊張の顔付き、まじめな眼ざしの中であって、相州小田原くんだりから、斯かる新設沼津高専に見事笈を負い得て意気揚々、しかも見るからに朴訥至極、まじめさを地でゆくような、ほんとはちょっとポケットとしたようなところが無きにし

もあらずだったが、まあそれも意地らしく感じられるほどで、学問への意欲に眼光らんらんと輝いていた、—いたはずのひとりの入学生がありました。今にして名を言えば、知る人ぞ知る、わが沼津高専機械工学科に新進気鋭の教官、かの柳下福蔵氏のあどけなき紅顔、少年のはじらいの姿だったのであります。あれから十二年、まさに功成り名をとるべく、あっぱれ彼は母校の数壇に立って、もはや威風堂々の青年教師として、さっそつたるものであり、とくに最近、ごく最近首尾よく、よき佳人を得、念願のハイラテンも相成って一段とカンロクもついたようです。たゞそのために此の頃はまだ一寸いそいそ、そわそわしているかも知れないのが玉にキズなんです……。まあ以上は私の「文学的？表現」でして、そんなことはどうでもいいことなんで……、こんなこと言うつもりはなかったんですが……私の云いたかったことは、その彼にくらべて此の十二年間、この俺は、このへっぽこ教師市川良輔は何をしてきたろう、何の変哲もなく、何の進歩もなく平々凡々、いたずらに馬齢を重ねるのみの五十有一歳—それ以上はまあ云わない方がいいでしょうが、近ごろ痛烈な自己批判、自己嫌悪、いわば倦怠期？に至っている。この辺で心機一転して、今年以後は、一年に一回、開校記念日のマンジュウをあと十四五回楽しみに頑張らなくては……なんて思います。

—とんでもなく自分のことに深入りしてしまいましたので、話題をかえます。いや、話をもとにかえましょう。

さて、これも朝比奈先生の言のくりかえしですが、開校第一回入学式の時の井形校長の学生への訓辞はたしかに天下一品でした。これはまさにとりも直さず新設沼津高専の建学の精神であり、ご承知のように「人からの良い優秀な技術者となって世の期待に報いよ」という本校永遠の校是となったものだと思います。これはゆくりなくも現校長樋口先生が先日私に云われたのですが、何か今の学生諸君の一部の者が、校長先生が赴任されて間もなくのころ、先生の教育方針なり、先生としての現沼津高専の校訓なりは何かというようなことを聞かれたので、学校の教育方針や校是というのは、校長が変わったからといって改まることのないのであって、井形校長の校訓は即ち現校長の夫れであると、厳然として同等であり安んじて服膺するものであるということに答えられた、敢えて云えば言葉は違っても根本精神は同じことだ。ま、けっして私ははてらって言うわけではありませんが、これは至言だと思えます。感激であります。この井形校長の訓辞を、今日は此処でどうしても反復したいと思えます。さいわいにして入学式直後、入学式の訓辞を複製にしたのと同様な文章が、この開校の年の沼津高専新聞第一号に、当時編集を担当した私の企画にすんで与えられた

ものが残っております。ですから必要なところを読んでみます。

「高専と我等の覚悟。若き日の第一年、われら斯くあり。学校長井形厚臣『高専の使命』—天然資源にめぐまれない日本は、国民の技術をもって経済を立てねばならぬ。工業技術の進展は生産を高め製品の品質を向上しひいては輸出の拡大となる。否、そのみならず日本文化、広くは世界文化の向上にも大きな貢献となることは云うまでもない。わが国が工業立国をとえなすゆえである。この重要な工業界に参与する人的資源はどうなっているか。むろん大学卒業生もあるが、そのほかに、とくに製造技術の中核となって活動する技術者、すなわち工場における優秀なる中堅技術者、これを必要とする声が業界からも非常にさかんに上がっているのが現況である。このような社会の切実なる要望のもとに設けられたのが工業高等専門学校である。而して学生諸君はその責務を負うべく多数の競争者から選抜された闘士である。志願者の数は地方によっては二十数倍に及び、わが沼津高専も昨年度本年度はともに十五倍の高率であった。…

「高き競争率の意味するもの」—中学校で抜群の成績をもった者でなければ高専へ入学し難い。換言すれば高専は優秀なる学生の集団である。これを如何に育て伸ばすかということについては十分なる熱意と考慮をもって対処せねばならぬ。五か年の後に仮りに是を平凡に世に送る様なことであっては相ならぬ。そのためには高専では優秀なる教官をえらび能率よき教官組織を持たねばならぬ。幸いわが沼津高専の職員はそれぞれ各分野において研究業績を持たれる人格者が集まっている。学生諸君においても各自が身体を鍛え勉学に励み、人からのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえる心がけが肝心である。入学の際に厳選された誇りは、在学中はもちろん一生を通じて生かさなければならぬ。社会もまた、新しく発足した高専の成果については大いに注目と期待を寄せていることと思う。

「教官学生の態度」—以上の事柄が単にお題目に終ることなく是非実現させねばならぬ。学生指導ならびに学校運営の上に、教官はよく和の精神をもって対処し、能率発揮に努力し、一方学生はつとめて教官に接触して、その研究態度及び人間性を学びとり、五か年の間に確固たる技術工業人としての実力を養うよう銘記すべきである。そしてそれは実現可能のことと信ずる。……」

まあ沼津高専新聞の第一号が出たのは丁度一年目が終るしめくりのような時でした。したがってここに井形校長は「一か年の回顧」ということを書いてくれました。

「岡の宮の金岡中学校の仮校舎で椅子もなく立ったま



37年5月、入学生及教官全員で箱根へ遠足のとき、前列井形校長、市川、後列渋谷、三ツ井、朝比奈教官。



同、前列、現伊達会長と島村副会長など。

まで入学式を行なってからもう一年になる。人生意気に感ず、若人の希望に満ちた燃える様な意気はあたかも荒野を打ち開いてゆくような最初の一年を元気に乗り越え、しかも色々の経験と思い出を残して過ぎて来た。毎学期の試験、箱根への遠足、運動会、寮祭、さてはマラソン等、苦しいこともあったがカームエナジー的に静かに過ぎてきた。新校舎もようやく第一期工事が完成され校地も整備された。四月初めから移転し新年度の優秀な入学生も迎えることになる。富士の秀峰を背景に新装成っ



臨海寮風景？ 37年5月



等1回全校マラソン
金岡仮校舎前を出発。

た高台で多くの友を迎え、今年もまた全員一丸となって緊陣一番頑張りようではないか。沼津高専の礎を築こうではないか。……」

まあ、以上のようなわけで、井形先生ご自身開校入学式の第一回の訓話をもとに再現されたようなものですが、その内容としては学生だけでなく教官われわれをも激励したところがあります。それに応える意味合いと云ってもよいかも知れませんが、教官は教官として創設時の希望抱負などを一言ずつ述べたもの、一期教官各人が「斯く思い斯く希む」という記録もあります。十年経った今はもちろん違った感慨でしょうが、まあ思い出のかわりに今から読んでみます。先生方もう忘れていないかも知れません。

「岡田泰栄先生、静岡県出身、数学、静岡県立教育研修所より、機械工学科A組担任。この十年あまり統計的な仕事に従事し、新制高校の教官としての経験は僅かでした。光栄ある沼津高専の最初の教官となって、新しい気分で張り切り、みんなと協力して大いに創立の成果を上げたいと思います。……

朝比奈博先生、静岡県出身、日本史、静岡県立教育研修所より、電気工学科担任。学校勤務は全く久しぶりのこと、やっと近ごろ学生全部の名前と顔がおぼえられてうれしい。学生たちには、自由の中にも確たる自覚と責任のもてる行動、そして己を律するに常に厳であれと強く要望したい。……

市川良輔、静岡県出身、国語、静岡県立韭山高校より、機械工学科B組担任。草創の高専とその教職員学生、何をおいても和と団結が肝要、はく自身ここで『人は人、われはわれ、されど仲よき』を至言とし、一期教官たるをも運命？とも思うので、先ず応分の学校づくりから勉強してゆきたいのです。……

渋谷茂雄先生、山形県出身、化学、静岡薬科大学より、図書主任。一つ、新しい学校作りに意義を感じ、本校の伸びゆくテンポに遅れないよう努力中。一つ、人間とし

てまた学生、帰弟、国民としてのつとめに励まれんことを。……

野中宏先生、静岡県出身、英語、沼津市立高校より、教務主事補。思ったことはどんでん言え、やるべきことはどんでんやれ、美と真理をこよなく愛し礼節をわきまえ友情にあつく学問を軽んじない勇気と知性をそなえた人、こんな人にはくもなりたいたし、君らもなってくれ、英語の勉強をもっとやれ。……

三ツ井東司先生、保健体育、静大教育学部より、寮務主任。体育の場は教室で沈滞気味の学生には最適のところ、理くつを並べる前に先ず走れ、とべ、投げよ、その活動の中において他教科では学び難い望ましい人間関係が養われるのである。学生諸君、惜しみなく身体を動かせ。……

大橋定先生、静岡県出身、機械設計製図、静大工学部より。専攻が金属工学であったので設計製図は昔を思い出して張り切っておりましたが、長い間大学生と接していたためかいまだに明確な頭の切り換えが出来ぬような感じがしている。……」

ま、あと省略されておりますが——。今にして思えばみんな大へんしおらしく殊勝な沙汰だと笑われそうな気がしないでもありませんが、気持ちは確かに張り切っておったと思います。

(以下次号)

田方郡修善寺町修善寺1145-1
TEL 0558-72-0572

職員

近況報告

旧事務官 宮本幸雄

高専制度の発足から9年沼津高専に勤めましたが、ふり返ってみてすべてが非常に良い経験をさせて頂きました。

46年に大阪大学へ転出し、八尾市の信貴山の麓に住んでおりましたが、E4回卒の平哲夫君がすぐ近くに居りましたので良く遊びにきてくれて沼津の話や同窓生のことなどの話などで楽しく過ごしました。時折M4回の熊切英幸君も見えられ、卒業生に会えるのは嬉しいものです。これも学生関係の仕事をしていたお蔭だと思っております。大阪梅田の地下街では何人かの卒業生のお顔も

拝見しておりましたが、なにせ混雑の中でしたので言葉もかけませんでした。元気でやっている様子でした。

49年に現在の仙台電波高専にまいりましたが、この学校は高専の中では一番新しい学校で46年に旧電波高校を母体として昇格した学校ですので、まだ最上級生が4年生というところでした。

仙台から山形行きの国鉄仙山線で二つ目の駅で愛子という所に49年7月末に新校舎が出来て8月に仙台市内から移転し、9月から授業を開始したところでした。

愛子という所は仙台市の郊外ですが、まだ一段と自然のままの土地で風光よく前方に蔵王がかすんで見え、すぐ裏は両岸のそりたつた谷底には広瀬川の清流が鮎をさそい、今は紅葉の素晴らしい見頃で、この辺では河原で「いも煮会」の盛んなところ。自然と共に野鳥なども多く昨日は体育館に雉が飛び込んだりしております。

こんな素晴らしい自然環境の中で学生と共に毎日を過ごしております。

大阪で一緒だった熊切君も時を同じくして近くの名取市へ転勤になり、先日立寄ってくれました。知らない土地で沼津の卒業生に会えたのは嬉しかったです。

木戸義一先生も福島におられる様に聞きましたので、まだ電話だけで失礼しておりますが、近いうちに折をみてお尋ねしたいと思っております。

まづは近況まで申し上げますが、同窓会の益々の御発展と沼津高専の御繁栄を心よりお祈り申し上げます。

〒982 仙台市八木山緑町1-1

近況報告

坂本和彦

拝啓 近況申し上げます。

会長の伊達君に原稿をと理事会のあることにせかれ、今さら何を書いてよいやら悪いやらで相変らずの駄弁を並べてみることにしました。

私が昭和38年4月に静岡大学より本校に厚生係長(あとになって学生係長という名称に変更されました)として就任。その頃は学校も出来たばかりといっても、まだ工事中で泥の校庭、沼の運動場という表現がピッタリの様相でした。その頃から早や12年の年月がたち、卒業された諸君達は今年の3月で8回をかぞえ約1,000名もの数になったわけです。この11年間学生係長として卒業生の皆さんに接するたびに「沼津高専で学生生活の喜怒哀楽を共にして来た仲間達」と懐しい、そして初恋を再び味わう? ようなわくわくした気持ちになります。

「万年学生係長だ」と言われた私も、今年の5月に庶務係長に配置換えになり、ようやく「万年」とひやかされることもなく、ほっとしていますが、仕事の関係で学生と遠のいた淋しさが混同しあって一時は何となくおかしな気持ちでした。が、最近ようやく落ち着いたところ。今は学校の玄関口である庶務課に席を置き頑張っておりますので、来校の際にはどんな顔をして仕事しているか覗いてみて下さい。

さて、先般同窓会総会が高専祭の日に行なわれ、皆さんに会えるのが楽しみで、是非出席するよう同窓会役員や先生方にも勧められておりましたが、このたび函南町に家を新築したため、この日は引き渡しやその手続きがあつて都合がつかず、止むを得ず欠席しました。本当に申し訳なく思っています。当日、私を尋ねて「会いたかったのに」と立ち寄っていただいた方が多勢いたたの事を聞き、会えなくて残念と思うと同時に感謝感激しているところ。またまだ若いと自負していた私も、当年とって47歳。春と秋の球技大会には昔とった杵づか卓球に出場してはいますが、寄る歳なみとでも申しましょか、自動車の排気ガス対策と同じで出力低下が目立って来ました。これからも沼津高専発展のために微力を燃やしていきたいと思っておりますので、諸君の力添えをお願いし、同窓会の発展を心から祈っております。

皆さんも、元気いっぱい、仕事に自信を持って邁進されるよう胸を張って歩いて下さい。

蛇足ながら、新住所が次のとおりになりましたので、お知らせします。

〒419-01 静岡県田方郡函南町平井1300-76 柿沢台8-8

家内も学生食堂から皆さんによりよく伝えてほしいと申しておりましたので、付け加えさせていただきます。

「同窓会だより」に寄せる

会計課出納係 伊東 仁

東海にそびえて名あり沼津高専同窓生1,054名は、今や優秀な技術者となって、世の期待にこたえ、社会への貢献、特に工業発展に努力と勤勉さが認められ確固たる基盤を築き将来への方向を定め、その目標に向かって力強く邁進しておられることと思ひます。

さて先日同窓会長の伊達さんが見えまして、同窓会だよりの原稿をお願いしますと云われまして、承知はして見たものの私は単純な頭脳の持主であり、日常業務に追

われているため過去を顧み、現在置かれている立場等についてゆくり考える余裕もない毎日ではありますが、何か寄稿しなければと思考しているうちに第1回卒業生120名の名前と顔を想い出したりしました。

亦、同窓会総会に出席して、久しぶりに逢った卒業生達と十余年過ぎた昔話や現在の様子等、母校を愛する諸氏、立派になった同窓生の皆さんを懐しく高専で学んだ青春の想い出は果てしなく尽きないことでした。

「忘れ得ぬ時代よ、忘れ得ぬ人々よ
花散り花開きて いくとせも夢の如し
仰ぐ空にきょうも雲が流れてゆくー」
すっかり施設整備された、五つ年の学びの庭母校を時
には来校して想い出を新たにして下さい。

会 員

近ごろあまり思わないこと

機械工学科1期卒 白井一夫

高専を卒業して8年たった。28歳。3年前結婚し、1歳半の女の子が1人。父母に祖母を入れ6人家族。去年4月に現在の勤務先である東芝機械に転職した。車で約20分の所にある。おやじは農業をやっている。

私は中学のはじめの頃は将来は百姓をやろうかなと思っていたがその頃はしだいに工業中心の社会になりつつあったし、成績も1、2番ということもあって、中学の終わり頃方向を変えた。ちょうど高専設立が沼津に決まり、高校へ進学するとまた大学入試があるので高専を選んだ。殆どビリ位の成績で入った。皆もちやほやするし入学できたことを一応ラッキーだと感じた。同級の女の子の中で一番頭の良かったのが、いみじくも言った。

「わあすごい、だけど高専へ行ってどうなるの?」私はまた入試をするのがいやで高専へ行くのであって、その他のことは何も考えなかった。学歴的には大学へ行った方がよいのはわかっていた。だから彼女の言葉にギクリとしたが、「バカ、高専へ行って工業のことを勉強するに決まってるじゃないか」とだけ答えたが、「それからどうなるの?」という部分だけがその時から離れなかった。

高専在学中は中学の時とちがって、授業数も多い。中学までは授業中にその日の問題は理解するようにし、またそれができたために、予習復習は殆んどしなかった。従ってついていくのにたいへんだつたので、中学よりは勉強したと思う。卒業する頃には $\frac{1}{4}$ 以内位の成績(真偽

は知らないが、当時就職担当の先生の言葉より)だそう。 (どうでもよいことだが話のなりゆきから書いた。) 卒業の頃にはエリート意識も学歴も自分には何もなかった。卒業式の時文部省の役人の言葉のなんと白々しく聞こえたことか。「君達の前途は洋々としている」。……しかし、我々は一期生であり、我々が頑張らなくては次に続く者はどうなるのだ。私はただそれだけを思い、日立精機に入社した。

入社試験なんでものはおていさいであり、何の感激もなかった。ただ入社した以上頑張らなくては、高専の評価は卒業生が出て5年すればくだると思っていたので、いろいろ自分なりに頑張ったつもりである。おそらく会社評価も悪くなかったとも思っている。評価と報酬とは違う。学歴社会においては当然のことである。入社して6年たった。私は長男である。そして才能のズバ抜けた技術者ではない。同じような仕事ができ、家族と一緒に暮らせるならばということで、思いきって今の会社に転職した。

最初から通える会社を選ばなかったことに対しては全々悔いてはいないし、むしろよかったと思っている。夜電気の勉強に2年間通ったし、欧米の工作機械会社も見に行ってきた。仕事もやったがメチャクチャもやった。若かったので楽しかった。はじめの会社をやめ、いまの会社に勤めるようになってからは、何だか肩の荷が降りたような気がし、今ではノンビリマイペースでやっているような気がする。やはりパイオニア精神で次に続く者のため頑張ろうなどと思っているとよけい疲れるのだろうか。

高専制度は今までの教育体系とは根本的に異なるものであるといくら叫んでみたところで社会もそれに相応して異質の体系になっていなければ何にもならない。そういう意味で少くとも卒業生をもたずに入社した1期から5期までの学生は犠牲者だったかもしれない。

大学へ編入制度がある。しかし極少数でかつかなり優秀(高専の教育に対して優秀)でなければ行けない。それも頭を下げ下げ、おそらく普通高校からなら同じ大学へ難なく入っていたであろう人達か。また必ずしも工業関係に不向きな人もあろう。中学から自分の進路を決めてしまうのはなかなか難しい。その点では高専とはこういう学校でこういうことを主体的に教育する所ですとよく中学生に理解をして頂くことがもっとも必要だろうと思う。そうして入学してくる人達ならば我々よりは救われると思う。

最初に大学編入者が出た、あるいは大学受験者が出た時点で、もうすでに高専制度は6334とは異なる新しい教育制度ではなく、6352という今まで通りのそれ

と何ら変らないという方向を我々は見たのであります。

この袋小路を打開するため科学大学院なるものを設立しようとしている。いずれにしても高専は最終教育(狭い意味で)の場ではないのです。しかしこのようなことは今はじめてわかったわけではなく結局自分が選んだ道なのです。大学大学と猫も杓子も行く昨今、大学も一流校は別にして、いずれも改革をせまられようが、そのゆくえによっては高専のあり方も改めて検討をせまられると思えてならないのだが? 高専の良い面、大学の良い面を合わせもつような一つの形になるかも知れない。

いろいろ書きましたが、最近はそのこともあまりむきになって考えている訳ではありません。多くの人と楽しく仕事をし、つきあい、家庭を平和に、そして子供を明るい良い子に育てるかの方が私にとって重要なのです。人間として人間らしくいかに人生を過ごすかということばかり思っています。

同窓会だよりに載せて頂くということですが、同じようなことを思っている人、逆なこと思っている人、どんどん言いたいことを寄稿してやって下さい。

卒業生諸君の御活躍と発展を祈る。

〒419-01 田方郡函南町間宮828
TEL 05597-8-2769

寸評子

M1 島村俊記

9月24日跡部邸にて、母校柳下教官の壮行会を行なった。彼の論文が米国ASMEに認められ、米国での講演発表会に参加するための渡米を祝っての会である。彼の研究は、故土井静雄校長が世界的に名を成した「ビビリ振動の研究」を一步進めた内容のものである。

壮行会当日は、柳下君のスイートホームに近く、安く出来る所という事で、日頃同窓会事務所がわりに使っている跡部邸を使用した。

大きな家に一人ぐらしなので広々と使えると思ったら大まちがいで、所せましと色々なものが放られて足の踏み場が無い。一日かけてやっと整理し、何とかスペースを作り、料理はスーパーで買って丸のまま出すと言う無礼講方式で行なった。平野君を初め数人が(独身なれしたためか)手料理を作り、何とか様になった。沼津近辺在住19名の内14名が集まり、柳下君の話の皮切りに、次々と話題がとび、昔話や現在のエピソードが披露されあつと言う間に時間が過ぎてしまった。14名中独身者が9人と言うのに妻帯グループにおされ、自然に話が落ち込

み、きれいな人もいないので、つい話が行ってしまった。ただしここでは当局がうるさいので文章を載せるわけにいかない。

さて、当日集まったメンバーから出発して、私の会った又はうさを聞いたM1メンバーの動向をお知らせしますので、昔を思い出して下さい。(敬称略)

跡部…国鉄をやめ、電業社勤務も板につき、一人ぐらしを楽しんでいる。オーディオマニアでジャズのリコード、カセットにはすでに数百万円投入している。最近ではポンコツカーにて御出勤。同窓会事務長として大変いそがしい。

大沼…早く結婚したが子供がいないのが悩み、目下研究努力中。健闘を祈る。ゴルフにこっており、かなりの腕らしい。

奥田…軟式テニスから硬式テニスへと幅を広げ、余暇を利用して運動をしている。組合の役員も兼任し、多忙で有る。

小池…ジャパンコミュニケーション社長。印刷やダイレクトメール関係、デザインと手広くやっている。同窓会の配布物、印刷発送も彼にやってもらって助かっている。何か依頼があったらよろしく。

小永井…三島から毎日かよっている。なかなかの紳士で本人の話から総合するとかなりのプレーボーイである。着るものもうるさく選定するらしくセンスが良い。

佐々木…体をこわし、入院していたため心配している向きもあろうが、地元に戻ってすこぶる健康なので安心願う。ただやはり少しもるくせは直っていない。

佐藤…魚熊で生きのいい魚を扱っているので荒っぽいかと思っただけ、おとなしく、紳士である。競馬が好きだとか。

白井…東芝にもなれ、色々面倒見も良く、同窓会でも世話になっている。独身者へも気をつかい、仲人をしてくれるが、まだ一件も実っていない。

杉山…東海道線乗務のため地元に戻って来た。信州の良い空気とアルコールによって、若干太めであり調教を要す。普段はどう見ても国鉄マンとは思えないスタイルである。国鉄も事故が多いから気をつけて。

伊達…同窓会会長。いそがしく奥様も多少不満気とか。コートキではかなりの堅物で通っているらしい。体の軟かさは相変わらずで、ネクタイ背広のままで後輩の前で徒手を軽々とやってのけたのはさすがだ。

平田…沼津の夜にかかせない人物。サキソホンで客を魅了し、沼津の一流の場所で、バンド演奏している。彼等につきもの夜のうわさは一切無くまじめである。

平野(一)…山好きが、幅を拡げ夏はヨット、冬はスキーと一年中体を休めない。料理もうまいし、まだまだ独身を謳歌しそうである。

以上に前記柳下君と筆者島村を加えたのが当日出席者である。その他に

足立…岡崎をやめたが九州で頑張っている。

安藤…体を一時こわしたが、今は元気で、たまに1期の集まりに顔を出す。

石川(省)…吉沢姓に変わり私の知る限り結婚第一号である。色々な事業をやっており、同窓会のハガキに「同窓会へ協力する」と有り期待している。

石川(女)…学校にいる時はどうしても同級とは思えなかったが、今は年相応である。

板谷…ジャズと女には目が無く、営業として各地をとり回っている。夜の話は抜群であるが、会社のPRも忘れないのがにくい。

市川…組岡さんの送別会に現われ、スタイルで話題をまいた。一時の不調をはね返し、遠州製作で活躍している。

入沢…今年親念して結婚生活に入った。管理職になったのが早くスピード出世であった。気風が良く、よくおごってくれる。

大橋…ヨーロッパの方へ長期出張したとか。ヨーロッパへ行く人は一度連絡をすると便宜を計ってもらえる。

大原…紙不足の最中に会ったので、ユーザーを代表して苦言を提しておいた。ただ日夜努力して生産されているそうだ。ジャズには今もこっている。

大和田…はなやかだったニキビも無くなり、色男になっているのにはびっくりした。鉄人と言われた堅さは変わらない。

川崎…ソ連に留学し、現在ソ連の女性と結婚し、日本に戻って来ていると聞く。

川本…国鉄時代パチンコのプロになるとは切り切っていた。たしかにうまかった。今もやっているかどうかは不明。

木ノ内…入社時週刊誌で「東大生より優秀」とさわがれた通りの活躍をしている。山登りが好きで腰をいためてもなお行きたがる。両親が一月の間に連続して亡くなったのは残念だ。

木伏…大阪弁が板について話す方がとまどった。ヤンマーでは設計のやる範囲が広いらしく、大変であるとのことだ。

小林…事務局では住所不明となっているが、電業社に特許の役人として視察指導に来たらしく、まさか「酋長」とも呼ばず、とまどったとは大沼の弁。

後藤…会をもよおすと遠方ながら良く来てくれる。堅そ

うだが結構やわらかい話をして楽しませてくれる。篠田…木戸さんの送別会に来た時はもうすぐ無職となり「ヒモでもやるか」と言っていたが、今自分で事業を始めたと聞く。浜松地区のまとめ役として同窓会に協力してもらっている。

清水…世界中を旅行して今は国内にもどって来たとか。ネパールでマリファナをやっていたら見た事有るのが通ると思ったらそれが長谷川(晴)であったと言う奇偶は有名な話。なお旅行中実家に同窓会連絡を出すと思わず父親から返信が来ていたのはありがたかった。

白岩…おやじさんといっしょに頑張っている。

白鳥…営業マンであり、かなり太っている。三菱重工事件ではもう少しであぶなかったそうだ。

ページが長くなるので次回に渡ることとする。他に情報があったら知らせてほしい。

〒410 沼津市大岡586-19
TEL 0559-63-7256

日日雑感

E1 鈴木恒男

ベルが鳴る。16時45分。今日も終業のベルを耳に手を止める。跡片付けをし、作業服を着替える。さて今日は……。

某月某日

今日は、リーグ戦のある日だ。いつものメンバーで臨む。第一投を投げる。「ドーン、ゴロ、ゴロ、バシヤン」パカッと5-7が残る。うーむ、今日も苦戦だ。どうもこのところスランプである。タイミングがおかしい、指がうまう抜けない、身体が開く、等々、迷い、結局、レーンが読めずに終わる。

某月某日

一人静かに「ディ、英治」を聞く。近頃は、ピアノの響きに耳を傾けることが多い。菅野邦彦も好んで聞くレコードの一つだ。又、「ブルーアランフェス」もいい。

「リーン」と遠くでベルが鳴っている。レコードが入った、との連絡らしい。明日にでも寄ってくるでしょうか。

某月某日

組合の集会有る。いつものように「起て、飢えたる者よ……」と、氣勢をあげる。正直なところ、この歌詞には抵抗を感じる。今時のサラリーマンの内、どれ程、食えない者がいるだろうか、と思わずにはいられない。何故って、この石油不足の時代にだよ、マイカーで通勤し、時にはネオン街に出るしね。そんな話をすると、すぐ反論がくる。「キョウビ、サラリーマンが家をもてるか。土地だけで一千万円だよ。当然借家に住むよな。そうすると、車、ステレオと考えるだろ。」「まあね、政治の貧困だね。」……と話はつきない。ガンパロー三唱で解散する。

かくして今月も「地平線の彼方に夕陽が沈んでから〇時間が過ぎました」とFMがささやく時間となる。澄んだ夜空には、星がまたたいている。明日も晴れることだろう。おやすみ。

〒 410 沼津市下香貫島郷2667-1
TEL 0559-31-0282

私の山行き

M2 名倉光雄

私は学生時代は、サッカーをやっていましたが一もちろん今もやっています。一入社して色々な山に行きました。その中で、印象深いものの一つを御照会させていただきます。

千本-富士山-山中湖完全踏破

出発(昭和47年6月30日17.15)

終業のベルが鳴ると、今までおさえてきた胸の中の熱い物が込み上げて来、手に汗が滲む。タイムカードを打ち、更衣室に駆け込み、あの社内では不自然なニッカズボンにはき替える。登山靴をつっかけ、今朝一本早い汽車に乗って持って来たザックを取りに部室に行く。ザックの重さは17.8キロ、それを片方の肩にせ門に小走る。門にはタクシーが待ち構えていて、3、4人づつを乗せて出発する。波がよせる浜で小ビンに海水をくみ、記念撮影のあとラジオ体操をして、総員10名にて千本浜を立つ。

岩波テント(着22.30-発4.55)

霧が外灯の光をやわらげている。あと少しで今日の目的地。皆さすがに疲れが見える。先に来た見送りの方々が途中まで出迎えに来てくれていて、皆最後の力をふり

しほり進む。「ファイト、ファイト」の声が暗闇に消えて行く。テント場では、スイカ、ビール等が用意されていて、私達はそれらをむさぼり食い、飲んだ。満腹になってテントに入るが、なかなか眠れない。翌朝4時に起床し、身仕度をして、皆に別れを告げ出発する。

七合半小屋(着19.20-発5.25)

今さっきまで歩いてきた下に続く道を見、明日登る頂上までの道を見上げる。薄暗くなった空には星が青く、やわらかな光を降り注いでいる。冷たい風の中で背を丸くして、弱い光を見つめていると、光は青、赤、黄色と移り変わる。大地と空の境界が自分であるかのように思う。明日は頂上だと思うと食事すすすんだ。

頂上(着7.12-発9.5)

やっと着いた。一步一步がついに3776メートルを征服した。頂上にはかなりの残雪があり、表面がのりが乾いたようにカサカサになっていた。測候所よりの展望は素晴らしく、南アルプスの山なみが一望できた。また来よう、この景色、この友情、この心の安らぎを忘れないために。頂上小屋で各人が好きな物を食べて下山の途についた。

山中湖(着15.42)

山中湖が見えると皆の顔に笑みが浮んだ。千本浜より持って来た海水を山中湖に注ぎ入れて今回の全行程を終える。よく歩いた。よく登った、こんな気持ちが全員の胸の中に湧いた。足のマメを数えながら入浴をし、今回の山行きの成功を祝してビールを飲んだ。今日歩いたこともすっかり忘れて飲む、実にうまいビールであった。

駿東郡長泉町下土狩779-3

大阪での生活

M2 仁科和晴

大阪営業所へ転勤してから、2年半たってしまったが、その間色々なことをした。コータキの大阪営業所は、所長以下数名というメンバーで、僕以外はかなり歳の上の人である。アパートへ帰っても、今迄家から通っていたのとは違い、1人だけで、ぼつんと住むことになった。来て2日目には、早くもホームシックにかかってしまい、この孤独は3ヵ月くらいで、俺の頭を狂わせるのではないかと思った。次の日、これについての対策を練った。まず、地図を買い、自分の住む豊中市に何が有るか調査した。そこで発見したのは、豊中勤労青少年ホームという所で、地方から大阪へ出て働いている青少年が、ノイローゼになったり、非行化しないように、皆で集まりサ

ークル活動をするのである。ここへ先ず入った。中にはテニスクラブも有ったので、練習に行った。毎週火・木土の夜、ライトの下で練習した。しかしこのクラブは、日曜日はコートの都合で練習できないので、今はやりの、テニススクールへ行ってみた。ここは硬式なので、今迄やってきた軟式のフォームをくずさないために、左ききとして登録した。テニススクールは、女の子ばかりで、男子は全体の1/3ぐらいしかいない。余りにも恵まれた環境ではあったが、初心者ばかりで、こちらは左手とあつては、球すじは定まらず、いい加減うんざりしてしまった。ここはレッスン料が高いこともあり2ヵ月でやめた。

次に出かけたのが、スイミングスクール。かねてから、水泳は、運動不足を解消するのには良いと思っていたので行ってみた。年中無休の温水プールであり、冬でも300mも泳げば、体内が熱くなってきた。これは今でも入っており、日曜日の夜良く行く。

次に行ったのがお料理学校。レッスンは1週間1回で、6人ずつがグループになり、作り、あとは皆で歓談しながら食べる。毎日1人ぼつちで飯を食べるのは、まことにわびしく、たまには多くの女の子に囲まれて食事をするのも良い。このお料理学校は良いことづくめのようなのだが、レッスンそのものはなかなか注意力を必要とする。自分で自分の分を作るだけなら失敗しても気が楽なのだが、6人分受け持つので失敗すると全体の料理をぶちこわしてしまうことがある。つまり責任を果たさないことには、楽しいどころではない。カレーライスを作った時、飯炊きを引受けた僕は、上から見ても黒い程こがしてしまい、会わせる顔がなかったことがあった。

さて遊んでばかりいてはいけなそうと思ひ、商都大阪へ来た記念に、夜間大学の商学部へも入った。名前は関西大学。学校へ来て発見したのは女の子が大勢いること。この当り前なことは、高専という殺風景な所を通ってきた者にとっては、たいへん良く見える。ところで大学へ行くことになったので、夜間のテニスクラブは行けなくなり、日曜日に練習できるクラブへ変更した。池田市軟式テニスクラブという所で、女の子300名を擁するクラブである。(実際によく参加する人は少ない)

以上が僕の大阪での生活状況である。来阪する時には立寄って下さい。夜の町でも案内します。

大阪府豊中市本町2丁目1-57 双葉荘

卒業後を振り返って

M4 伊奈始

人生には、その人の一生を左右するさまざまなめぐりあいがある。

師、友人、恋人、敵……。

昭和45年4月、富士小松ロビンに入社してまもなく転職希望者を募られ、入社式で顔寄合って食事をした社長が2ヵ月後には会社を去り、そしてすぐ社名が富士ロビンに変わった。それから翌年まで社長のいない会社となり、退職者があいついで現れた。私の職場でも例外でなく、送別会が毎月のように行なわれ、3人いた高専の先輩もやめていった。

そして、47年の春闘時には会社から合理化提案があり希望退職という形で160人余の仲間を失った。これは、私の入社以前より繰返されてきた赤字経営のしわ寄せ、環境の悪さ、機械設備の粗雑さ、全社的なコミュニケーションの悪さ、そして日本農業の将来の展望の悪さなどをとつても明るい材料が見つからない中で、仲間が職場を去っていくのは当然のことであった。この時は私も何度やめようと思ったかわからない。何日も悩み、考えた結果“人生は長い。この先色々なことが私を待っているだろう。好、不況は働らく者にとっては避けることのできないものである。今皆と同じようにここでやめたら、また次の時にもやめることだけ考えてしまうだろう。ならばいっそれを試練、経験としてこれからの人生に生かそう。一人前になるまではどんな不況になっても今の仕事に従事しよう”こう思うことができたなら、不思議と迷いが取れて仕事に熱中できた。これまで仕事は治工具の設計をずっとやってきたが、現場の仕事と違って設計にはその人の個性が大半をしめるので精神状態の悪い時には失敗が多いということはこの合理化によって知らされた。

その後も合理化の効果は現れず、低迷が続けたが、政府の農業政策の転換、農機の第2需要期による敗売量の急増等の外的要因に恵まれ、ようやく立直りをみせ今日に至っている。そして今またインフレ、総需要抑制策による販売不振から経営が悪化してはいるが、どん底を経験した仲間の団結があれば何とか切抜かれるだろうと思っている。

こうして振り返ってみると、この4年半の間に随分と色々なことがあった。その中には私の人生に少なからず

影響を与えるものも多くあったと思われる。しかしどれも一生を左右するというほどではなかったが、今私の一生を左右するめぐりあいを確認した。

それは、……恋人。

〒410-22 田方郡伊豆長岡町長瀬214
TEL <05594> 8-3873

同窓会とは

E5 水上重徳

私も母校を、夢と希望に胸ふくらませ、更に“人からの良い技術者となって世の期待に応える”べく旅立ってから早四年。今だに夢をすてず、世の期待に応えるべく、日々の勉学に、そして学生時代に描いたデッサンに筆を加えております。私の同期生として入社した高専生は7名、学卒は70余名であります。ここで感じられるのは、今だ卒業生の数がごく少数であるためかもしれませんが、一種独特な雰囲気を持っているということです。これは“ひとがらの良い技術者”となるべく、沼津高専のみならず、全国の諸兄が頑張っていることと思ひ、私も少なからず、張り切らざるを得ないといったところです。

ところで私は先日迄、母校の同窓会に関して微力ながら協力しておりました。そして、感じたことを少々述べてさせていただきます。

まず、同窓会総会を3回程、経験したわけですが、諸兄の母校に対する夢とでも言いますか、3年連続雨が降っているにもかかわらず、常に百数十名の諸兄が歓談できるということを非常に楽しく思いました。5年間も同じ学校に通っておりますと、その間に大部分の学生と顔を合せることになり、その人々と同窓会という意志のもと、再会できる喜びは、学生時代の想い出として、何物にも変え難いと思ひます。仕事の厳しさ、つらさも、この一時に幾分なりとも軽んずることができるならば、また一年に一度ではあっても、母校の校歌を、声を張り上げることができるならば、同窓会の意義は一層深まるものと思ひます。

そうです。市川先生も言われました。

“同窓会は卒業生の里帰り”

であると。

庵原郡富士川町岩淵207

2人のお城

C2 佐野秀明
宏子

結婚して3年目を迎えました。2人のお城の工事は着々と進んでおります。子供は男の子が1人。1歳半になりました。いたずら坊主です。手の届く所は手当たり次第かきまわします。障子を破き、鉛筆でいたずら書きもします。わけのわからない言葉を発し、ちょこちょこ動き回ります。“腕白でもいい、たくましく……”私達は健康にだけ気をつけています。薄着と日光浴、歯みがき。これが健康保持の3原則です。効果は大きく、病気がらずです。かぜをひいたことも熱を出したこともありません。何でも好んで食べ、夜もぐっすり眠ります。私達にとって、一番の宝物なのです。

思えば8年前、私達は国立の新進校の狭き門をそれぞれの夢をもって、くぐり、歩み始めました。化学技術者になるという同じ目標だけを持ち、知らない者同志、1つの部屋で毎日すれ違っていました。それぞれに音楽、スポーツと異なった趣味をもっていました。

そんな2人がお互いの存在を知ったのは、門をくぐってから4年後でした。席が隣り同志の2人が馬が合い、ついおしゃべりしすぎて先生に（特に富田先生・小松先生には御迷惑をおかけしました。）注意される事、しばしばでした。それからは席換えの度に前後左右と近くに陣取り、公然と交際したものでした。いっしょに食事したり、勉強したり、スポーツしたり……。卒研を途中で抜け出して、裏山へ散歩に行ったり、ちょっと車でコーヒーを飲みに行ったり。彼が卒研で徹夜した時、彼女のさし入れのおでんの鍋を皆で囲んだ事もありました。それから、卒業・就職とそれぞれの道に別れなければなりません。が、神様の引き合わせというものでしょうか、よほど縁が深かったのでしょうか。勤務先が4kmと離れていない同じ市内だったのですから。そして、なるべくして2人は結婚。

現在、私達の夢は平凡になりました。子供が大きくなったら、私達の若さを十分に発揮して、子供と共にスポーツしたり、サイクリングしたり、キャンプに行ったり、そしてたまには2人きりで旅行をしたり……。ともかく今は、一生懸命働き、子供を育て、お城の土台をしっかりと築く事です。

〒256 小田原市国府津3丁目13-21 星野アパート

故小林正直先輩を思う

C2 中村誠一

もう7年も前のこと、新入部員の私達を前にして小林先輩（電気工学科4期）はコートライン引きの後の用具の洗い方を教えてくれた。軟式庭球部の新入生の日課はコート整備であり、中でも大切なものはライン引きである。陸上競技や野球のライン引きとは違ってテニスは水で石灰を溶いてジョロとハケで1cmの狂いもなく引かなければならない。その後よごれた用具をていねいに洗うのだ。

その時に半袖のトレーニングシャツを捲って「どうだ」と言った。春の合宿で日に焼けたそう。黒く焼けた所とかくれていた所の色の差が印象的であったのをよく覚えている。先輩が3年の時である。

当時軟式庭球部の3年生は10数名もいたがその中で最もすばらしいプレーヤーであり、早くから高専大会へ選手として出場した。

さらに5年の時には部長として活躍した。練習は厳しかったが、なごやかな人柄のために私達下級生同士は先輩を小林さんやマサナオさんとは呼ばず、その名のとおりショウジキさんと呼び信望が厚かった。

体は小さかったがファイトマンであった。東芝プロジェクト本部へ入社してからそのたくましさや充分発揮している。沼津から日本海まで400キロ余にわたる道程を歩いて横断したというつわものであり、そしていつも何か希望を持っていた。

卒業してからもよくテニスはなされており、会社の近くでの大会に出場したり、また母校までわざわざ後輩の指導に見えられた。いつも下駄ばきで来るから面白かった。そうそう徒歩で日本横断した時にもよくテニスコートに野宿したと聞いた。練習に励み愛着を持っていたコートには安心して宿ることができたのであろう。

そのようにテニスに学生時代打ち込んだ先輩も5年の時に東海地区高専大会で惜敗したため全国大会へ出場することができず悔やまれたことであろう。学生時代最後の大会に自分が部長として中心となり全国大会優勝を期して頑張っていたのだ。4年生が個人戦で出場した全国大会（仙台）へ応援に来られた時は寂しそうであった。

そんな小林さんであったが今年の8月27日早朝なくなられた。病名は急性白血病と先輩の父親さんよりうかがった。24歳の若さであった。6月初めより具合が悪かったらしいが私達には貧血のためと聞いていて8月の初めにも、もうすぐ退院するようなことをうかがっていた

ので先輩がなくなられたと聞いた時には全く信じられなく悲しいものであった。先輩の配慮から他人に心配かけないようにしておいたらしい。

軟式庭球部もまたOB会もすばらしき小林正直さんを失ったことは誠に残念である。幸いお棺の中に生前愛されたラケットをたずさせて行かれたとうかがい安心した。

空の上からそのやさしい目なざしとともに沼津高専軟式庭球部が全国制覇する日を待ち望んでいることであろう。学生よ頑張れ、先輩の希望を遂げんがためにも。



昭和43年当時の軟式庭球部
2列左から5人目が小林正直さん。

近況報告

M7 名木治

機械科第7期卒業生の第一回会報に私こと名木治が、第1号に近況報告を書くことは、おそれ多い事ではありますが、ここに一筆とらせてもらいます。

卒業後、川崎の甲陽建設に入社し、一年間勤めましたが、思うところあり、3月にそこを退社し、4月に金指造船に入社しました。

本社は清水に有りますが、豊橋に新工場ができて、今は豊橋のいなかに住んでいます。所属は設計部機装設計課機装係。機装係とはナニをやるところかといいますが、エンジン周りの補機類とエンジンのパイプラインを設計するところ。係としましては12人、うち1人は高専の先輩です。

今は勉強期間中で、主機、船殻構造、熱交換器（影山氏による蒸気原動機の講義、もっとよく聞いとけばよかった→実感）など、勉強しております。また係は管装と鉄艦装に分けられ、私は管装の仕事をしています。今は次のタンカー船のパイプアレンジメントの勉強中です。

さて私生活の面といえ、学生時代、酒もやらず、女もやらず一見マジメ風でしたが、また名木といえ太っていたと御存じの方が多くと思いますが、卒業後一年間で減量に成功しましたが、また少しずつ太りだし学生時

代のイメージが出てきましたが、青木隆、榊原氏には
まだまだ及びません（失礼！）

それはともかくとして、毎日、宿と会社の往復では、
変化がなくつまらないので、週2回ぐらいサークル活動
で卓球をやっています。また余裕（金と時間）が出来る
ようになりましたら、山の方へと足を向けたいと思っ
ています。最後に世の中が一年、二年ともすごい勢いで
動いていくのが目に見えて感じる事が出来る位、異常
ともいえる一年間でした。

また、これからも私たちの思っていない方向へ世の中
が動いていくかもしれません。そんな時、対処できる心
構えが必要になってくるのではないのでしょうか。

では、皆様元気で……。サヨウナラ

富士市下横割54-13

飲みだべり会へどうぞ

M7 鈴木 利 育

浜松は地元でもあり、沼専生も多く、時々町で顔をあ
わす事もある。やはり、みんな頑張っており、連れが
いる事が多い。あいかわらずの人もいるようだが、浜松に
は同窓会の支部もあり、年の暮れには忘年会を開いてお
り、恩師も2~3人来てくれるので懐しく行なえる。

やはり学生時代の仲間はいいもので、たびたび会って
だべりたいものだ。そこで我が花の七期生の間でも浜松
を中心として飲みだべり会を開こうと思っている。集ま
った人数が多かれ少なかれ楽しくやりたい。

まず私が連絡係をやろうと思っているので、近い人は
住所と電話番号を連絡してほしい。

私の住所は浜松市竜禪寺町316

T E L 0534-53-4532

会社 05383-2-1111 (内線 688)

反省的回想

E7 葛 野 直 治

本来怠け者のほかに、会社勤めの楽しい筈はないので
すが、それでも何とか一年半が過ぎ、まだ仕事に追われ
ることもなく、のんびりと日々を過しています。

過ぎ去ったことはそっとして置きたいのですが、意識
的に昔を思い返さねばならない破目に陥って、自分のし
てきた生活の貧しかったことに、かなり惨な気持を抱か

されます。余りに狭い視野と乏しい行動力と、そして確
信の持てない精神と、そんな状態で何時も飢えを感じな
がら授業・クラブそして下宿へと同じパターンを繰り返
すだけでした。余り出来の良い学生でなかったばかりにと
ってその毎日の辛かったこと、未だに夢を探し続けている
現状を考え合せて見ると、当時から割切って頑張ってい
た人達は矢張り偉かったのかなとも思います。

そんな訳で、兎に角も五年が経ち、何もかも途中で放
り出したような恰好で、逃げるように卒業したばかりにと
って語る可き多くはないのですが、記憶を辿りながら少
しばかりの思い出を述べ、紙面を汚す責を果したいと思
います。

堀米先生のこと。ほくはこの人に誠意とはどう言うこ
とかを、嘘についてはいけないことを、人は表と裏を持
たなくても表だけでも耐えて行けると言うことを教わり
ました。一点の隙もない程の論理で身を固め、幾重にも
思索の壁を回らせてしかも何もしない人でなく、傷付く
のを一番良く知りながら討って出る人だったし、一生懸
命やって出来ない時は何も言われず、良い加減にすると
本当に悲しそうな顔をしてくれる人でした。ただ、最後
までほくはこの人が恐かったこと、そして高橋和巳さん
が亡くなったのをこの人の口から聞かされたことは何か
を暗示しているようで辛いことでした。

高専祭のこと。何年のことだったか忘れたけど学生会
が出来て（高専祭の為に学生会が出来たのかも知れない
が）何も分からない者達がめっちゃくちゃに動いていたと
き、見えない処で惜みない援助をしてくれた坂本さん、
渡辺御夫妻並びに事務の方々、夜遅くまでも付き合っ
てくれたこの人達の温かさも忘れてはいけないと思っ
ています。

友のこと。良い加減な奴と付き合いっていた為か、思
い出すことと言ったら学校サボってダルマ山まで歩いて行
って昼寝をしたり、三島のパチンコ屋であり金使い果し、
二人でトボトボ歩いて帰ったり、フラフラになり仲見世
でひっくりかえって歌を歌ったり、そんな寂しいことば
かりなのですが、頼りなくても良い奴ばかりでした。そ
んな連中に巡り会えただけでも少しは意味のある学生時
代だったかと思えます。

とりとめのないことを書いて来ましたが、こうしてい
ると振り返るまいと思っていた母校が妙に懐しく思えて
来るから不思議です。

忘れかけていた様々なことが浮かび上がり頭を駆け抜
けて行きます。人の情と言うものでしょうか。これ以上
書くと收拾がつかなくなりそうなのでこれでペンを置
きます。末筆ですが、諸先生方、職員の方々、先輩諸兄並
びに後輩諸君の健康と母校が健全に発展せんことを心か

ら祈っております。

〒410 沼津市西浦木負278

現 状 報 告

M8 飯 田 富 保

我、沼津高専を卒業して以来、もう8ヵ月目にはいり
ました。卒業後、母校へ足を運んだのは夏の高専大会の
前、数日間だけです。沼津に勤務している者としては、
非常に先輩諸氏の方々には、すまなく思っています。

就職後は、実習期間として自衛隊に体験入隊したり、
座禅を組まされたり、また名古屋まで行ってセールスも
やってきました。そんな訳で、沼津に居ることは少な
かったのですが、高専時代の友達も回りに集まり、最近
はよく誘い合って飲むこともしばしばです。そんな折には、
学生時代のなつかしい思い出を肴にして夜のふけるのも
忘れて飲んでます。

さて、私の勤務しているリコー沼津工場は土地柄のせ
いか、沼津高専卒の先輩も多く、私の机の位置も3期生
の先輩の後にあります。自然とわからないことは、その

全国高専サッカー選手権大会観戦記

鈴鹿にて開催された第12回東海地区高専大会を、
優勝といううれしい結果にて通過でき、3年ぶりに
て全国大会に参加することができました。群馬の前
橋にて開かれたこの大会には、全国各地の予選を勝
ち抜いてきた16校にて、8月27日~30日の4日間戦
いが行なわれました。

緒戦、関西代表の神戸高専と対戦した沼津高専は、
前半20分頃中盤からの縦パスに合わせた俊足RW川
崎のシュートが決まり、幸先よいスタートを切りま
した。後半PKにて同点とされ、20分の延長戦後も
つれ込んだPK合戦もGK内藤の活躍により辛勝し、
次に駒を進めました。苫小牧高専を破って出てきた
関東代表育英高専との戦いでは、CF増田の目のさ
めるようなボレーシュートで先制し、敵FWの20m
のミドルシュートで追いつかれた後は、LW松本か
らRW川崎のクロスパスより川崎のクリーンシュ
ートにて一蹴し、準決勝へと進みました。準決勝の相
手宇部高専は、前回の優勝チームでもありましたが、

方に聞くこととなります。沼津高専卒の先輩は上司の人
達の評判も良く、皆、一線で活躍しておられます。早く
私もそのようになりたいと、ない頭をしばりしばり頑張
っています。

私は、高専時代、バレーをやってきましたが、そのう
ちに会社内でバレーボール大会もあるとか。卒業後は、
ボールにさわったこともあまりありませんが、クラブを
指導しに行くという名目で学校の方へ、練習に行きたい
と思います。そのときには先輩達に会うのを楽しみにし
ています。

このような作文的文章を書くのは本当に久しぶりで、
とまどってしまいました。同窓会の委員の方々には、御
苦勞ですが、同期の皆の住所がわかるような頼りをお願
いします。

こう言う私も、例の住所決定のハガキを出してありま
せん。早々に出すようにします。

では、皆様、体に気をつけて、我、沼津高専を連絡本
拠地として、お互いの情報をとりながら、より一層頑張
っていきましょう。

(現在 リコー沼津工場工務部保全課所属)

〒410 沼津市原887-1

T E L 0559-66-1491

M6 坂 井 徳 尚

沼津高専は、立ち上がりよりゲームメーカー早野の
スルーパスが宇部BKの裏側へと通る理想的な展開
となり、ヘッドイングシュートが敵ゴールを襲いま
した。敵GKのファインプレーにゴールの成らな
かった沼津は、後半待望の先取点がLW松本のボレー
シュートにより生まれましたが、しかし粘り強い宇
部は、それまで完璧な守備をしていたBKの不運な
自殺点に息を吹きかえし、たたみかけるように、CF
が見事なヘッドイングシュートを決めました。

大会は、関東代表桐蔭高専の二度目の優勝に終わ
り、沼津高専は富山高専と共に三位という結果にて
その幕を閉じました。地区大会よりグランドコンデ
ィションの悪い中、苦戦の連続ではありましたが、
一試合、一試合、力の限りを尽くして戦ってきたイ
レブン達、高専生活での、よき思い出の1コマとな
ってゆくことでしょう。

沼津高専同窓生の、浜松地区における 同窓会的活動とその軌跡

浜松地区代表 篠田

沼津高専第1回卒業生誕生後の、浜松地区における同窓会的活動の紹介と併せて、今後指向すべき方向を記してみよう。

当初は一期生、それも仲間うちだけの宴席が、2、3回頃まで設けられていた。その頃は気のおけない宴席とあって、遠く神奈川方面より参加する猛者も見うけられた。その後、毎年1回年末に開くこの宴席が恒例となり、静岡県西部地区に在住する卒業生に広く呼びかけ、現在では本部主催の集会を凌ぐほどの活気溢れる集会という事である。

思えば、この西部地区の活動の源をさぐれば、沼津高専史上に永遠に残るであろうといわれる、あの臨海寮時代にさかのぼらなければならないであろう。当時西部地区出身の一期生の提唱により、E・F・Cなる怪しげなる友好会が結成され、臨海寮において二度ほど集会が開かれたものであった。これを伏線として、このような怪しげなることにのみ全精力を費していた愛すべき劣等生諸兄の、経験と感覚が、この活動を現在まで存続せしめたく、大いなる因と想像されるのである。そのため、最近まで一期生中心の感は免れえなかったが、ようやくにして適齢期と共に、一期生にも生活の疲れが見えはじめ、また一方では岸岡二世と称される人気者を含めて、有望なる新人群の台頭によってその勢力地図は塗り替えられ、今後一層の発展が期待されるのである。すでにこの席には、一昨年の大橋・渥美・柳下の三教官に続いて、昨年の朝比奈・柳瀬両教官と、諸教官を招く企画も序々に遂

の朝比奈・柳瀬両教官と、諸教官を招く企画も序々に遂行されている。今後も順不動にてこの人気企画は続けられるであろう。

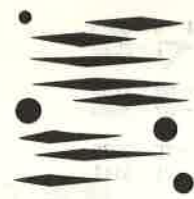
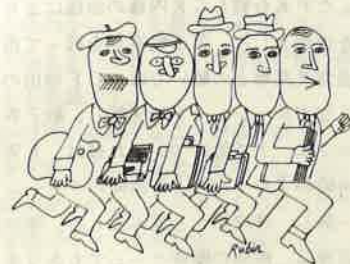
この場を借りて、諸教官の快い出席をお願い申し上げます。卒業生一同“住時の遺恨、酒にて晴らさん！”とばかり、歓談、乾杯の時をお待ち申し上げます。

また、ここ数年は夏の納涼の席も設けられるようになり、ビアガーデンへ三々五々集い、消息の交換、友好の時を過ごしている。

問題となるのは、年と共に当然の如く卒業生も増え、また縦の線も長くなり連絡不如意となることである。その為昨年には、各期毎の代表者を選び縦・横の緊密性を図るように考慮された。尚、さらに卒業生が増えれば、一時一所開催が不能となる事も考えられ、今後検討の要があろう。もし他地区にて、支部結成が行なわれるとするならば、その際には、前もって十分考慮されたい。

今後は、このような宴席、集会に限らず、卒業生諸兄ならびに本部とも連絡を密にするような、組織だった活動が行なえるようになれば、各方面への指向を考え、同窓会的活動の軌跡を延ばすべく、努力しなければならないであろう。同窓会本部への今後の協力要請と、気鋭の新人群、並びに無名のベテラン勢への集会参加への呼びかけをもって、この項を閉ず。 完

浜松市曳馬町630
TEL 0534-25-1288



告知板

名簿担当理事

名簿担当理事が下記の通り決定しました。勤務先・現住所に変更のあった時には必ず連絡下さることをお願い致します。

M1	跡部 恵一郎	〒410 沼津市大岡南小林3319-1 電業社機械製作所第2設計課	自宅 勤務	0559-21-1081 0559-75-8221	内線254
M1	島村 俊	〒410 沼津市大岡586-19 明電舎沼津事業所機器事業部生技課	自宅 勤務	0559-63-7256 0559-21-5111	内線562~4
M2	武田 裕久	〒412 御殿場市二枚橋100-10 電業社第1設計課	勤務	0559-75-8221	
M3	大地 喜久	〒410 沼津市岡一色780 特殊製紙工務課	自宅 勤務	0559-21-7546 0559-86-1131	内線384
M4	風間 隆太郎	〒410 沼津市東沢田861-2 三菱アルミニウム	自宅 勤務	0559-21-8261 05599-2-1211	
M5	鞠子 誠	〒412 御殿場市中山544 東芝機械	自宅 勤務	0550-7-1046 0559-21-5240	
M5	堀井 常雄	〒410 沼津市今沢165 昌和製作所生産三課	寮 勤務	0559-66-4980 0559-66-6111	
M6	坂井 徳尚	〒410 沼津市下香貫島郷2865 富士アピタシオン	自宅 勤務	0559-31-7346 0559-21-7809	
M6	石黒 俊一	〒416 富士市森島264 東芝機械	自宅 勤務	0545-61-7150 0559-21-5240	内線282
M7	杉山 高一	〒410-11 裾野市佐野931 国産電機原料課設計係	自宅 勤務	05599-2-3293 0559-21-5930	内線293
M7	間野 賢司	〒410-24 田方郡修善寺町修善寺627-1 電業社第2設計課	自宅 勤務	0558-72-3786 0559-75-8221	内線253
M8	石橋 正之	〒410-21 田方郡韭山町四日町854 電業社第一設計課	自宅 勤務	05594-8-3486 0559-75-8221	内線251
M8	近藤 博明	〒410-2 沼津市千本港町14 東洋電産	自宅 勤務	0559-63-7134 0559-63-4567	
E1	鈴木 恒男	〒410 沼津市香貫島郷2667-1 コータキ制御機器部	自宅 勤務	0559-31-0282 0559-86-5360	
E2	神山 始佳	〒410 沼津市大岡1005-11 藤倉電線施設課	自宅 勤務	0559-51-5473 0559-21-3111	内線423
E3	小池 洋三	〒410 沼津市八幡町13 明電舎複合装置設計課	自宅 勤務	0559-62-3496 0559-21-5111	内線605
E4	加藤 昌裕	〒411 駿東郡長泉町下土狩1116-85 東芝機械	自宅 勤務	0559-86-2430 0559-21-5240	内線358
E5	小川 吉晴	〒410 沼津市大岡上石田2646-1 明電舎変圧器工場技術一課	自宅 勤務	0559-21-5887 0559-21-5111	内線311

E5	水上重徳	〒421-33 庵原郡富士川町岩淵207 東芝機械	自宅0545-81-0162 勤務0559-21-5240 内線358
E6	大城清	〒410-22 田方郡伊豆長岡町小坂918-2 大東製機	自宅05594-8-2885 勤務0559-71-2520
E7	島本豊	〒424-02 清水市興津本町234 藤沢薬品	自宅0543-69-1762 勤務0545-52-3680
E8	長谷川親正	〒411 駿東郡清水町新宿269 明電舎	自宅0559-75-2072 勤務0559-21-5111
C1	大沢沢幸一	〒410-12 裾野市須山38-2 関東自動車22実験課	自宅05599-8-0022 勤務05599-7-2121 内線633
C2	中村誠一	〒410 沼津市大岡3873 特殊製紙総合技術研究所	自宅0559-21-6988 勤務0559-86-1131 内線286
C3	納谷修	〒417 富士市伝法2-2507-2 三島製紙	自宅0545-51-0308 勤務0545-52-4060
C4	山田久義	〒410-21 田方郡韭山町内中154 東洋醸造	自宅05594-8-3809 勤務0558-76-2111 内線364

現住所不明者

同窓会はずべての沼津高専卒業生に総会の案内、同窓会だよりの発送その他の連絡をとりたいたいと思っておりますが残念ながら下記の方々は今住所不明につきそれらの連絡がとれておりません。
もし、これらの方々の方々の現住所をご存知の方は同窓会までお知らせ下さい。

- M1 鍋田, 沖沢, 小林, 橘, 長谷川(晴), 松本, 小木
- M2 上野, 岡田, 加藤(昌一), 加藤(昌弘), 久野, 斎藤, 小出(和), 小出(清), 辰野, 土屋, 中島, 村上, 中西, 浅井, 大石(浩)
- M3 飯田, 内山, 島, 戸塚, 仲田, 中山(和), 山口, 山田(清), 山田(和)
- M4 青木, 市川, 岩崎, 岩永, 小池, 水谷, 鈴木(克), 鈴木(兵), 望月, 渡辺, 湯山
- M5 飯高, 伊沢, 大森, 小笠原, 小野, 小林, 富井, 藤田, 水野, 森崎, 山内, 山口, 吉田
- M6 阿部, 岩堀, 加藤(光), 北川, 沢田, 白鳥, 田中, 福田, 山口, 山下, 長田
- M7 秋田, 伊藤, 岡田, 落合, 島田, 早瀬, 茂出木, 八木, 山田, 山本(優)
- M8 なし
- E1 岩崎, 梅田, 近藤(司), 近藤(勉), 佐藤, 鈴木(克), 田口, 平岡, 宮地, 山下
- E2 加藤, 川村, 近藤, 谷岡, 富山, 中野, 長谷川(正)

- E3 井上, 植松, 大畑, 小沢, 加藤, 栢沼, 桑原, 小杉, 佐藤(忠), 鈴木(悦), 鈴木(優), 田中(克), 増井, 増田, 三浦, 三室, 望月, 吉野
- E4 鈴木, 太田
- E5 遠藤, 佐藤, 水越, 山川
- E6 海野, 大内, 小野, 風間, 佐野, 塩川, 塩谷, 杉本, 鈴木, 日吉, 平井, 望月(邦), 山田(茂)
- E7 長谷川(為), 佐藤(一), 鈴木(利), 鈴木(洋), 竹田, 寺田, 早村, 萩原, 星野, 増田, 葛野
- E8 名倉
- C1 なし
- C2 古性
- C3 内山, 遠藤, 高草, 奈木, 藤谷, 河合, 坂田, 田中
- C4 なし

会員死亡報告

去る8月27日、E4 小林正直君(元テニス部)が、9月7日 E3 長谷川進一君(元柔道部)が、相ついで亡くなりました。

ここに深く、両君の御冥福をお祈りいたします。

7, 8期生及び住所変更者名簿

7, 8期生名簿

機械工学科

M7 (昭和48年3月卒業) 69名

氏名	勤務先	現住所
相曾 広 充	鈴木自動車工業(株)第2技術部レーザーグループ 〒432 浜名郡可美村高塚300	〒431-02 浜松市篠原町10254
青 木 隆	本田技術研究所第8研究部 〒351 埼玉・和光市中央1-4-1	〒351 埼玉・朝霧市栄町1-2-15 熊谷方
青 木 義 光	高砂熟学工業(株)技術第2部4課渋谷事務所 ☎ <03> 255-8211 〒101 東京・千代田区神田駿河台4丁目2番地	〒214 神奈川・川崎市多摩区生田6477 高砂熟学生田寮526号 ☎ <044> 95-5055
秋 津 康 男	静大工学部4年	〒430 浜松市文丘町29-7
秋 田 晃 男		磐田市高町486 (自宅)
秋 山 隆 芳	旭硝子(株)京浜工場加工硝子部技術室 ☎ <044> 28-1281 〒210 川崎市川崎区田町2丁目4番1号	〒230 横浜市鶴見区諏訪坂20-3 旭硝子(株)北寺尾寮 ☎ <045> 581-3761
浅 井 由 道	東京芝浦電気コンプレッサー工場製造部製造技術課	〒417 富士市中里3丁目1377-1
市 橋 秀 和	オーエスジー(株)豊橋工場第2製造部技術課	〒441-12 愛知県宝飯郡一宮町宮前161-1 きつき寮
石 橋 泰 幸	松本亨高等英語専門学校 ☎ <03> 400-8321 〒150 東京都渋谷区渋谷2-14-17 アサヒビル5F	〒167 東京・杉並区西荻南4-1-1 宇田川荘
大多和 勝	㈱リコー電子機器製造部生産技術課 〒243-02 神奈川・厚木市下荻野中四つ谷1005	〒243-02 神奈川・厚木市下荻野1033-2 リコー荻野
伊 藤 哲 雄	進学	〒417 富士市大宮1739-7
内 田 晃	藤沢薬品富士工場工務部工務課	〒410 沼津市五月町1651-2
内 田 史 彦	東京農工大	〒184 東京・小金井市中町3-24-6 田村方
大 庭 公 一	昌和製作所品管部品保課1係 〒410 沼津市松長178	〒410-11 裾野市平松418 ☎ <05599> 2-0147
小野沢 信之	国鉄静岡運転所	〒428 榛原郡金谷町谷河原347-3
岡 田 光 生	進学	〒424 清水市宮代町9-22
落 合 利 博		〒410 沼津市我入道一本松230-3
栗 原 義 則	東洋工業(株)ロータリーエンジン研究部第一設計課 ☎ <0822> 82-1111 〒730-91 広島市外府中町	〒733 広島市観音町1-7-61 観音東洋ハウス505号
小 花 光 雄	興銀情報開発センターシステム開発部 〒102 東京・千代田区麹町2丁目4番地(日本興業銀行麹町別館内)	〒182 東京・調布市若葉町2-27 加賀荘1号
小 林 栄 二	小林鉄工所	〒437 袋井市広岡1360 小林鉄工所社宅
小 林 辰 夫	トヨタ自動車工業(株)東富士研究所第12技術部特殊研究室 〒410-11 静岡・裾野市御宿1200	〒410-11 裾野市深良1594
小 林 睦 司	静大工学部在学(機械科) ☎ <0534> 71-1171 〒432 浜松市城北3-5-1	〒432 浜松市文丘町29-7 成瀬荘 ☎ <0534> 72-2577

- 小林 康 弘 日立製作所佐和工場生産技術部 ☎ <0292> 73-5111 〒312 茨城県勝田市東石川西古内3128 悠高寮 ☎ <0292> 73-7420
- 後藤 充 孝 ㈱マルタイ 〒419-02 富士市入山瀬592-1
- 後藤 直 志 藤沢薬品富士工場工務部動力課 〒410 沼津市日の出町268-6
- 榊原 茂 美 トヨタ自工東富士研究所第11技術部第12実験課第3係 〒410-11 裾野市今里375 トヨタ第2東富士寮 〒471 愛知・豊田市トヨタ町1
- 桜井 康 雄 前川製作所 柏市中央町2-3-6 牧野荘
- 笹原 睦 生 千代田化工建設㈱プロセス機器3課 〒214 川崎市多摩区堰362 久地寮 ☎ <044> 521-1231 〒230 横浜市鶴見区鶴見町 ☎ <045> 822-6565
- 島田 一 〒420 静岡市籠上131
- 白井 省 三 ㈱東京機械製作所技術部設計第三課第2係 ☎ <044> 42-4311 〒211 川崎市中原区新九子東3-1135
- 宿谷 孝 一 里田精工㈱第2製造本部精機課 ☎ <044> 51-1451 〒211 神奈川・川崎市幸区下平間239番地
- 新村 伸 慈 代々木学院英文 〒151 東京・渋谷区代々木1-55-10
- 杉山 浩 一 スタンレー電気㈱電球技術部表示器技術課 ☎ <03> 710-2256~60 〒153 東京・目黒区中目黒2-9-13
- 杉山 高 一 国産電機㈱部品部原料課設計係 〒410 沼津市大岡3744
- 杉山 泰 治 トキコ㈱相模工場油空圧部ベヒコン設計課 ☎ <0447> 78-3111 〒252 神奈川・高座郡綾瀬町小国1116
- 鈴木 利 育 ヤマハ発動機㈱鋳造部技術課 ☎ <05383> 2-1111 〒438 磐田市新貝2500
- 鈴木 徹 ヤマハ発動機設計二課トヨタエンジン関係 〒438-02 磐田市竜禅寺町野崎1260
- 鈴木 賢 司 〒430 浜名郡可美村増楽831
- 庄司 茂 矢崎電線製造技術班 〒410-03 沼津市原331-19
- 高村 政 明 東名自動車㈱ ☎ <044> 78-6825 〒210 神奈川・川崎市高津区野川1434-18 東名自動車寮
- 田中 久 晴 鈴木鉄工所製造部技術課製造技術係 〒431-04 湖西市鷺津1112-1
- 田中 隆 志 小野測器製作所技術部設計課 〒253 神奈川・茅ヶ崎市浜の郷812-2
- 大長 誠 昭和設備工業㈱沖繩出張所 〒 沖繩・那覇市東町5-8 大門ビル前
- 谷 和 昌 三菱電機㈱静岡製作所パッケージエアコン製造部生産管理課 ☎ <0542> 85-1111 〒420 静岡市小島3丁目18番1号
- 土屋 京 太 日産自動車㈱吉原工場第一製造部第一機械課 ☎ <0545> 51-2311 〒417 富士市吉原宝町1-1
- 寺田 肇 富士機工㈱機課 〒431-04 湖西市鷺津
- 徳増 英 明 石川島輸送機㈱ 〒410 沼津市原 石川島輸送機寮
- 戸塚 信 弘 東洋ベアリング㈱磐田製作所ボールジョイント事業部 〒436 掛川市清崎22
- 中村 菊 男 キーバー㈱開発部開発課 ☎ <0466> 36-8141 〒251 神奈川・藤沢市辻堂神台2-4-36 ☎ <0466> 36-8949

- 中村 正 人 新菱冷熱工業㈱第二ビル設備部海外技術課 ☎ <03> 357-2151 〒160
- 中西 憲 男 本田技術研究所 〒351 埼玉・和光市中央1-4-1
- 名木 治 金指造船㈱豊橋工場設計部機装設計課機装 ☎ <0532> 25-4111 〒440 豊橋市明海町
- 野末 辰 雄 ミノルタカメラ豊川工場工作技術課生産技術開発係 〒442 豊川市光明町2丁目41番地
- 袴田 博 久 名古屋電信施設所 第三社宅内 〒461 名古屋市東区布池町1
- 早瀬 雅 敏
- 原 欣 資 三菱重工工業㈱広島造船所鉄構工作部海洋工作課機器機装係 〒733 広島市庚午南1-32-7 三菱庚午寮
- 茂出木 寿 山 東洋熱工業㈱工事部工事課 〒104 東京・中央区京橋二丁目9番地 (東熱ビル)
- 牧野 京 二 新日本空調㈱名古屋支店技術課 〒460 名古屋市中区栄1-12-12 (東洋ビル内)
- 増谷 安 宣 武藤精密工業㈱ ☎ <0532> 25-1211 〒440 愛知・豊橋市植田町字大膳39-5
- 間野 賢 司 電業社設計部2課 〒411 三島市緑町10番24号
- 松井 隆一郎 三菱電機静岡製作所生産管理部生産技術課 ☎ <0542> 85-1111 〒420 静岡市小島三丁目18番1号
- 水口 昇 日立製作所栃木工場第3製造部第2製作課第2係 ☎ <20824> 3111 〒329-44 栃木・下都郡大平町富田800
- 森川 修 住友ベークライト㈱川崎工場金型課 〒211 神奈川・川崎市幸区南加瀬字原町1140
- 八木 壯 一
- 山田 真 久 日本大学芸術学部
- 山本 憲 一 埼玉大学理工学部 (在学) ☎ <0488> 52-2111 〒338 浦和市下大久保255
- 山本 浩 山川工業工場設計課 〒417 富士市一色48-1
- 山本 隆 司 ㈱昌和製作所企画室第2グループ 〒410-11 裾野市平松390-1
- 山本 優 中部電力 〒409-31 山梨・西八代郡下部町三沢1060

M8 (昭和49年3月卒業) 81名

- 青木 真 〒417 富士市伝法町1956-7 <吉原> 呼52-5733 渡辺方
- 青野 隆 己 扶桑軽合金㈱浜松工場製造1課 ☎ <0534> 36-2111 〒430 浜松市萩町1488番地
- 秋山 智 明 三菱重工 (長崎造船所) 〒852 長崎市文教町3-57 三菱重工昭和寮
- 栗野 哲 之 〒432 浜松市西山町345 ☎ <0534> 85-0662

- 飯田 富保 410-03 沼津市原887-1
☎ <0559> 66-1491
- 石橋 正之 ㈱電業社機械製作所第一設計部第 設計課
〒411 三島市緑町
- 井出 清昭 鳥取大学工学部生産機械工学科(在学)3年次
☎ <0857> 28-0321 〒680 鳥取市湖山町1番地1
- 伊藤 昭夫
- 稲垣 道弘 住倉工業㈱設計部
〒430 浜松市中島町1600
- 岩ヶ谷 武史 東京計器(沼津営業所)
- 植村 豊明
- 内野 功一
- 大竹 秀範
- 大野 錦司 日本オイルシール工業㈱総合企画室システム部
- 大橋 康宏 ㈱小糸製作所静岡工場技術部設計2課
- 小川 博由 日産自動車㈱第1製造第2機械課
- 小沢 覚 静岡大学在学
- 小沢 正治
- 小野田 晋 ㈱富士鉄工所
〒431-04 湖西市鷺津2418
- 金子 淳一 積水化学工業㈱テープ技術課
- 川内 則宏 日立製作所(日立工場)エレメント部生産技術課
- 菊川 誠 花王石鹼㈱東京工場管理室設計課
〒131 東京・墨田区文花二丁目一番三号
- 菊地 弘道 ㈱明電舎変圧器製造部製造課
- 木村 真 ㈱明電舎開発機器事業部生産技術課
- 久保田 仁 日産自動車 機構補機設計部第二機構設計課
〒167 杉並区桃井3-5-1
- 久米 静雄 豊田自動車工業㈱生産部技術課
- 紅林 敏行
- 小池 千元 HONDA ENGINEERING ㈱第2設計室
〒350-13 埼玉・狭山市新狭山1-10-1
- 小林 龍夫
- 小林 敏郎 キーパー㈱開発部開発課
〒251 神奈川・藤沢市辻堂神台2-4-36
- 近藤 博明 東洋電産㈱開発室 ☎ <0559> 63-4567
〒410 沼津市大諏訪25番地
- 佐伯 博道
- 佐藤 公平 新日本製鉄(名古屋製鉄所)冷延部冷延技術課
- 〒410-21 静岡・田方郡韭山町四日町854
☎ <05594> 8-3486
- 〒680 鳥取市安長343番地 坪内幸美方
☎ <0857> 24-0446
- 〒437-02 周智郡森町森182-1-1
- 〒435 浜松市上新屋町814-7
- 〒410 沼津市住吉町8-28
- 〒428-03 榛原郡中川根町下長尾2500
- 〒437-12 磐田郡福田町豊浜933-2
☎ <05383> 5-3794
- 〒410-03 沼津市原93
☎ <0559> 66-0763
- 〒213 川崎市高津区馬絹1827-1
日本オイルシール寮
- 〒422 静岡市小鹿一丁目19番24号
- 〒410-03 沼津市桃里429-2
- 〒420 静岡市大岩本町17-7
- 〒430 浜松市和合町350
☎ <0534> 72-0067
- 〒431-02 浜名郡舞坂町舞坂1668-91
埼玉・蓮田市大字黒浜3535
武蔵積水
- 〒316 日立市西成沢町1-33-1 成美寮
- 〒273 千葉・船橋市行田町8
花王石鹼船橋寮
- 〒410-02 沼津市三津172
- 〒410 沼津市原786 ☎ <0559> 66-1497
- 〒168 杉並区浜田山4-16-4
- 〒471 豊田市トヨタ町8番地
第三平山豊和寮10518号室
- 〒420 静岡市幸町71
☎ <0542> 52-2900
- 〒438 磐田市馬場町3648番地
- 〒412 御殿場市大坂318-3
- 〒410沼津市千本港町14
☎ <0559> 63-7134
- 〒411 三島市大場113-1
☎ <0559> 77-2955
- 〒476 東海市富木島町東山3-1
第一東海寮

- 柴田 保彦 静岡大学(在学)機械工学科
- 島原 秋雄
- 志村 不二男 新菱冷熱工業㈱産業設備技術課
〒160 新宿区四谷2-4
- 杉田 勤
- 杉山 誠 東洋熱工業工事部
〒104 東京・中央区京橋2-9
- 杉山 己喜男 高砂熱学工業㈱技術2部3課
☎ <03> 255-8211
〒101 東京・千代田区神田駿河台4-2
- 鈴木 孝明 ヤマハ発動機
- 鈴木 光
- 芹沢 幸男 日立製作所
- 芹沢 礼孝 東亜燃料工業㈱建設部建設管理課 ☎ <07378> 3-1131
〒649-03 和歌山・有田市初島町浜1000
- 平良 静夫
- 高石 優 日立製作所 甲府工場生産技術課
〒400-01 中巨摩郡竜王町西八幡
- 高田 正隆 ヤマハ発動機㈱第3設計部
- 滝口 成夫
- 田中 勝志
- 丹沢 賢
- 寺島 泰英
- 外山 和己 静岡大学工学部学生 ☎ <0534> 71-1171
〒430 浜松市城北三丁目5-1
- 長倉 雅秋 明電舎沼津製作所複合装置部試験課
☎ <0559> 21-5111
〒410 沼津市東間門字上中溝515
- 中野 勝弘
- 中村 雅之 駿台高等予備高在学
- 中村 優一 奥村組 機械係
- 中村 芳弘 N T N東洋ベアリング
〒438 磐田市東貝塚
- 中山 清夫
- 成川 建三
- 西沢 義人
- 野島 徹男
- 〒432 浜松市城北2丁目31-7
間瀬兼吉方
- 〒411 駿東郡清水町八幡182
☎ <0559> 71-8658
- 〒250 小田原市下堀154
- 〒410 沼津市米山町13-15
☎ <0559> 21-9059
- 〒104 中央区新川1-24-9 永代寮
- 〒215 神奈川・川崎市多摩区千代ヶ丘
2-7-4 高砂熱学寮
☎ <044> 966-6444
- 〒438-02 磐田郡竜洋町掛塚768
- 〒437-12 磐田郡福田町福田5490-6
☎ <05383> 5-3580
- 栃木・下都賀郡大平町富田484-2 大原寮
- 〒649-03 和歌山・有田市初島町里1262
-2 第一竹田寮 ☎ <07378> 2-3564
- 〒420 静岡市池田654-2
☎ <0542> 62-1415
- 〒400-01 中巨摩郡竜王町3922
日立誠和寮
- 〒430 浜松市北寺島町506
- 〒412 御殿場市川島田467-1
☎ <0550> 3-1624
- 〒418 富士宮市大宮2650
☎ <05442> 6-8684
- 〒417 富士市荒田島2丁目97-1
☎ <0545> 51-2755
- 〒424 清水市大手町91
☎ <0543> 65-5681
- 〒431-14 静岡・引佐郡三ヶ日町下尾奈
828-2 ☎ <05352> 5-1133
- 〒410 沼津市西間門401
☎ <0559> 51-0449
- 〒418 富士宮市黒田93-2
- 〒164 中野区中野5-27-4 田村泉方
- 〒379-13 群馬・利根郡月夜野町小川139
- 〒437-12 磐田郡福田町中島1144-2
☎ <05385> 5-2592
- 〒437-16 小笠郡浜岡町門屋899
- 〒220 大阪府枚方市大字招提住友重機
有信寮
- 〒421-31 庵原郡由比町屋原580
☎ <05437> 5-3074
- 〒430 浜松市舘塚町2-7-4
☎ <0534> 53-2872

袴田 弘一 (株)富士鉄工所 〒431-04 静岡・湖西市鷺津248
 服部 芳喜 〒427 島田市御飯屋町7279 ☎ <05473> 7-4048
 広川 秀章 東洋レーヨン(株) 〒410 沼津市西熊堂807
 府川 和広 〒424 清水市入江3丁目10-29
 星野 克彦 〒431-12 浜松市村楠町2935-5
 堀池 利幸 千代田化工建設Design Group 機械Rating Team 〒222 神奈川・横浜市港北区綱島台3-3
 ☎ <045> 521-1231 〒230 横浜市鶴見区鶴見1580
 本間 伸明 住友ベークライト西尾工場金型課 ☎ <05635> 7-3115 〒445 愛知・西尾市大字亀沢468
 〒445 愛知・西尾市鶴城町北二ノ沢26-1
 鶴城寮 ☎ <05635> 7-5537
 増島 俊雄 三菱電機鎌倉製作所マイクロ波製造部設計課 〒253 神奈川・茅ヶ崎市十間坂1-1-31
 〒248 神奈川・鎌倉市上町325
 松井 美雄 〒412 御殿場市増田31-1
 ☎ <0550> 3-0031
 松下 之計 ヤマハ発動機(株)海外技術部海外技術課 〒438-02 磐田郡竜洋町川袋283-1
 ☎ <05383> 2-1111 〒438 磐田市新貝2500番地
 ☎ <05386> 6-2806
 満淵 晋 住友セメントクラブ 〒213 川崎市高津区坂戸421
 〒522 滋賀・彦根市地蔵町
 村松 真 不二サッシ工業(株) 技術開発部 〒290 千葉・市原市五井5232-2
 〒211 川崎市中原区中丸子135
 旭硝子(株)千葉工場技術室 ☎ <0436> 21-2305
 村山 好美 〒430 浜松市城北2-14-3
 旭硝子南総寮
 森井 和好 静岡大学在学 工学部 〒437 袋井市高尾1496-57 パイオニア
 〒437 袋井市鷺巣字西の谷15
 高尾寮 ☎ <05384> 2-3717
 森下 正巳 〒422 静岡市西大谷11番地の15
 〒437 袋井市鷺巣字西の谷15
 ☎ <0542> 37-0551
 八木 賢次 (株)小糸製作所 ☎ <0543> 45-2251
 〒424 清水市北脇500番地
 山本 薫 〒430 浜松市浅田町73 ☎ <0534> 53-0815
 山本 仁 駒沢大学(在学) 法学部 〒434 浜北市貴布禰598-13
 山本 芳一 いすゞ自動車(株)小型エンジン設計部 〒244 横浜市戸塚区平戸町1492 いすゞ
 〒252 神奈川・藤沢市上瀬8番地
 戸塚南寮
 米山 宏 〒421-05 榛原郡相良町大沢539-1
 渡辺 肇 〒401-03 山梨・南都留郡河口湖町船津
 140 ☎ <05557> 2-0706

電気工学科

E7 (昭和48年3月卒業) 39名

氏名	勤務先	現住所
池田 清	小野測器製作所システム部 ☎ <03> 758-1311 〒144 東京・大田区下丸子2-22-16	〒210 神奈川・川崎市中原区小杉町 2-315 二宮方 ☎ <044> 72-0590
伊藤 幸夫	安藤電気(株)技術部 ☎ <03> 733-1151 〒144 東京・大田区浦田4丁目19の7	〒233 横浜市南区永田町1254-1 井土ヶ谷寮 ☎ <045> 713-0253
岩間 圭治		〒417 富士市大淵1883-1
岩本 次夫	三菱電機郡山製作所工作部品質管理課 〒963 郡山市栄町	〒963 郡山市山根町10-1

上杉 直樹 日立プラント建設(株)環境設備事業部技術部第二課 〒115 東京・北区浮間1-13-20
 日立プラント建設(株) 浮間寮
 上野 晴久 〒420 静岡市八幡2-11-17
 大石 潔志 日立電子(株)小金井工場検査部第三検査課 〒192 八王子市石川町2951-6 日立電
 ☎ <0426> 42-0111 〒192 八王子市大和田町1644
 子(株) 石川寮 ☎ <0426> 44-5233
 荻原 弘道 スタンダード工業(株)外注一課 〒228 神奈川・相模原市上鶴間3622
 〒228 神奈川・相模原市上鶴間3622
 大浜 敏郎 明電舎工事業部環境衛生課 〒145 東京・大田区南雪ヶ谷4-10-9
 横山方
 勝又 裕司 信州大学工学部電気工学科 〒380 長野市若里500
 〒380 長野市若里500
 神谷 幸男 日本電気(株)相模原事業所交換機(株)開発部 〒215 川崎市多摩区細山229 日電(株)西生
 ☎ <0427> 72-4111 〒229 相模原市下九沢1120
 田寮 ☎ <044> 96-5464
 葛野 直治 〒410 沼津市西浦木負278
 久保田 寿一 東芝電気工事(株)電力設計部計装設計課 〒236 横浜市金沢区六浦町866
 〒162 東京都新宿区西大久保3-10
 紅林 誠 東北大学工学部電気係3年 ☎ <0222> 22-1800
 〒980 仙台市荒巻字青葉
 佐藤 正昭 東京電力(株)神奈川支店大船工務所大船保修所 〒983 仙台市原町小田原字土手前1番地
 ☎ <045> 201-6921 横浜市中区弁天通1-1
 松風寮 ☎ <0222> 56-3740
 島本 豊 藤沢薬品工業(株)富士工場工務部動力課 〒251 藤沢市柄沢467 湘南寮
 ☎ <0545> 52-3680 〒417 富士市中河原88
 鈴木 利弘 〒424-02 清水市興津本町234
 ☎ <0543> 69-1762
 芹沢 辰吉 高千穂交易(株)御殿場工場製造部TKグループ 〒420 静岡市大岩156-3
 ☎ <0550> 3-1111(代) 〒412 御殿場市保土沢1157
 御殿場市保土沢1157 高千穂交易
 曾根 敏 ヤマハ発動機技術開発室第1グループ 〒437 袋井市高尾1496-57 高尾寮
 〒430 浜松市砂山町380-3
 長尾 宜和 パイオニア(株)静岡工場技術部技術係 ☎ <05384> 2-3717
 ☎ <5384> 2-5111 〒437 袋井市鷺巣字西の谷15
 鷹野 澄 静岡大学工学部 ☎ <0534> 71-1171
 〒430 浜松市城北3-5-1
 高橋 治久 東京電気通信大学在学中
 竹田 雅昭 〒430 浜松市文丘町22-19 亀川正三方
 ☎ <0534> 71-4649
 坪井 邦明 (株)日立製作所戸塚工場 ☎ <054> 881-1221
 〒244 横浜市戸塚区戸塚町216
 日立吹土寮
 寺田 洋一 〒421-12 静岡市羽鳥285
 戸崎 行雄 三菱電機中津川製作所工作部品質管理課 〒508 岐阜・中津川市駒場町
 ☎ <05736> 6-2111 〒508 岐阜・中津川市駒場町
 1-3
 中村 孝文 三重大学工学部電気工学科3年 ☎ <0592> 32-4141 〒514-01 津市栗真中山町166 三重大学
 〒514-01 三重・津市上浜町1515
 安濃津寮
 長谷川 為康 〒514-01 津市栗真中山町166 三重大学
 安濃津寮
 長谷川 守 〒435 浜松市青屋町661
 早村 信一 日立製作所大みか工場 産業盤設計部 〒316 日立市森山町35番地 森山寮
 星野 和平 〒410-13 駿東郡小山町生土257
 前田 孝 中部電力(株)浜岡原子力建設所技術課 〒437-16 小笠郡浜岡町佐倉5430
 ☎ <05378> 6-3481 〒437-16
 〒437-16 小笠郡浜岡町佐倉5561番地
 中電浜岡合宿所

増田 秀二 富士通(株)情報電送技術部第2方式課 〒210 川崎市中原区1015番地
 松野 利博 松下大学院 〒525 滋賀・草津市野路町
 松本 良則 日本ユニバック(株)名古屋支店技術部トヨタ自工G 〒450 名古屋市中村区広小路西通3-2
 村松 隆 静岡大学工学部3年電気工学科 ☎ <0534> 71-1171 〒430 浜松市城北3-5-1
 山本 義春 松下電器産業(株)第1開発部技術部第1研究室 ☎ <06> 909-1121 〒571 大阪府門真市大字門真1006
 山下 悦治 金沢大学工学部電子工学科 ☎ <0762> 61-2101~6 〒920 金沢市小立野2丁目40番20号
 鷺巢 章 池上通信機(株)ディスプレイ部第1課 〒145 東京・大田区南雪ヶ谷4-10-9 横山方

〒227 横浜市緑区荏田町2734第2市ヶ尾寮
 〒471 愛知・豊田市柿本町6-6 日本ユニバック豊田寮
 〒430 浜松市文丘町22-18 亀川正三方 ☎ <0534> 71-4649
 〒573 大阪・枚方市北申振3-30-18 松下電器松善寮 ☎ <0720> 31-7332
 〒920 金沢市若松町第3土地区画第3街区11 田中ハウス11号室 ☎ <0762> 62-5357
 〒145 東京・大田区南雪ヶ谷4-10-9 横山方

〒421-01 静岡市向敷地355-9
 〒410-24 田方郡修善寺町牧之郷500 ☎ <0558> 72-0930
 〒170 豊島区上池袋2-26-18 福田方
 〒424 清水市村松317 ☎ <0543> 34-8784
 〒417 富士市一の宮町2丁目1872-5
 〒123 東京・足立区西新井本町2-24-7 北宮城寮
 〒464 名古屋・千種区唐山1-33 戸田荘内 ☎ <052> 781-0513
 〒251 藤沢市藤沢545
 〒214 川崎市多摩区中野島2400 日登戸寮 ☎ <044> 911-9796
 〒183 府中市日新町1-10 日電府中寮
 〒431-13 引佐郡細江町気賀749-4
 〒227 横浜市緑区元石川2123-12 大気社多摩プラザ寮 ☎ <045> 911-4309
 〒410 沼津市我入道秋葉町418-9
 〒420 静岡市沓谷3丁目26 ☎ <0542> 61-5732
 〒187 東京・小平市上水本町1503 誠心寮 ☎ <0423> 21-2246
 〒437 袋井市山田65-1
 〒244 横浜市戸塚区下倉田町970 下倉田
 〒432 静岡・浜名郡可美村高塚300-7 ☎ <0534> 47-5655
 〒430 浜松市富塚町1388-70

E8 (昭和49年3月卒業) 43名

渥美 寿一郎
 飯田 雄二 東京電気(株)大仁工場レジスター部技術課 ☎ <0558> 76-3111 〒410-23 静岡・田方郡大仁町大仁570
 石田 康人 〒170 豊島区上池袋2-26-18 福田方
 伊藤 千明 三菱電機静岡製作所冷蔵庫製造部技術課 ☎ <0542> 85-1111 〒420 静岡市小籠3丁目18番1号
 伊藤 昌弘 藤沢薬品富士工場製造3部2課 〒417 富士市中河原88
 遠藤 光一 東京電力金杉支社配電課 ☎ <03> 872-2121 〒110 東京・台東区竜泉2-18-6
 遠藤 龍次 日立プラント 〒464 名古屋・千種区唐山1-33 戸田荘内 ☎ <052> 781-0513
 大和田 裕 〒251 藤沢市藤沢545
 小野 美英 日本電気(株)半導体事業部信頼性品質管理部品質管理課 ☎ <044> 411-1111 〒211 川崎市中原区下沼部1753(玉川事業場)
 加藤 元行 日本電気(株)コンピュータ技術部信頼性管理部
 金子 衛 〒431-13 引佐郡細江町気賀749-4
 北沢 敬久 (株)大気社技術部 ☎ <03> 344-1851 〒160-91 東京・新宿区西新宿2-6-1
 後藤 秀雄 東芝機械沼津事業所電気部技術課 〒410 沼津市大岡2068-3
 斎藤 深 静岡ガス(株) 〒420 静岡市沓谷3丁目26 ☎ <0542> 61-5732
 佐藤 良信 日立製作所武蔵工場MOSIC部製作課 ☎ <0423> 21-2111 〒187 東京・小平市上水本町1450
 鈴木 省吾 〒437 袋井市山田65-1
 鈴木 孝広 日立電子サービス 〒244 横浜市戸塚区下倉田町970 下倉田
 鈴木 広幸 富士電気化学(株)湖西工場電子工業部応用部品課 ☎ <05359> 6-2151 〒431-04 湖西市鷺津2281
 鈴木 義男 〒430 浜松市富塚町1388-70

鈴木 良樹 日本電子(株)EOD製造部第2調整課 ☎ <0425> 43-1111 〒196 東京都昭島市宮沢町510-3
 〒196 東京・昭島市中神町1418 日本電子青雲寮 ☎ <0425> 43-4612
 瀬尾 三郎 タケタ理研工業(株)デジタル計測事業部OEM課 〒361 埼玉・行田市長野天神4737
 ☎ <0485> 54-3111 〒361 埼玉・行田市富士見町1-タケタ理研天神 ☎ <0485> 56-8465 3-1
 関根 博行 沖電気ソフトウェア事業部 ☎ <03> 454-2111 〒335 埼玉・蕨市中央1-16-29 沖第2
 〒108 東京・港区芝浦4-10-3 蕨寮B426 ☎ <0484> 32-4872
 芹沢 洋祐 〒410 沼津市我入道浜町326-1
 高橋 文明 〒734 広島市宇品神田3丁目6-9 升田アパート
 高見 勝好 東海電気工事プラント部計装電気第二課 〒472 知立市新林町平草24-2
 〒450 名古屋市中村区下笹島2-2 住友生命ビル8階
 高丸 真一 高丸電機商店(自営) 〒424 清水市新富町十番十一号
 田森 信行 静岡大学工学部電気工学科(在学) 〒430 浜松市文丘町22-18 亀川邦夫方
 ☎ <0534> 71-1171 〒430 浜松市城北3-5-1 ☎ <0534> 71-4649
 津久井 修一 〒411 駿東郡清水町中徳倉7-6
 土屋 篤 日昭電気(株) ☎ <03> 402-7151 〒168 東京・杉並区久我山4丁目50-27
 〒107 東京・港区北青山2丁目7-8 日昭寮
 坪井 悦夫 栗原工業名古屋支店 〒464 名古屋・千種区田代町字岩谷38-7
 〒450 名古屋・中区宮出町46 大塚ビル内 成龍荘
 長沢 保雄 電電名古屋データ通信局3部3課 〒468 名古屋市昭和区天白町8事字山田
 〒461 名古屋市東区葵町23
 馬嶋 孝行 中部電力浜岡原子力建設所試運転課 〒437-16 静岡・小笠郡浜岡町門屋2005
 ☎ <05378> 6-3481 〒437-16 小笠郡浜岡町佐倉 ☎ <05378> 6-3792
 中村 優 中央鉄道学園 〒185 東京・国分寺市泉町2丁目7-8 富士見寮
 名倉 一久 安藤電気(株)
 夏目 弘 トヨタ自工(株) 〒431-02 浜名郡舞坂町2668-2
 長谷川 親正 明電舎沼津製作所電力装置部試験課 〒411 駿東郡清水町新宿269
 日吉 圭三 トヨタ自工(株)第2生産技術部設備技術課 〒471 愛知・豊田市トヨタ町8平山
 ☎ <0565> 28-3232 〒471 愛知・豊田市トヨタ町1 豊和寮 ☎ <0565> 28-0897
 藤中 渉 高千穂通信機器製作所 〒484 愛知・犬山市藪畔18
 〒484 愛知・犬山市藪畔18
 松崎 雄二 矢崎部品(株)空調開発部 〒430 浜松市北寺島町186
 〒431-04 湖西市梅田390
 宮地 秀幸 日本ビクター(株)九州特機営業所視聴覚課 〒815 福岡市南区大楠2-23-2
 ☎ <092> 431-8611 〒812 福岡市博多区博多駅前 日本ビクター(株)福岡寮
 4-16-1
 山崎 達之 日本無線(株) 〒181 東京・三鷹市野崎120第11自啓寮
 山田 収 北辰電機機械工場中物加工部 〒227 神奈川・横浜市千草台14-18
 〒144 東京・大田区下丸子3丁目30-1
 山本 恭市 日本電池(株)東京支店産電販部第2課 〒251 藤沢市藤沢3602
 〒105 東京・港区西新橋1-8-1 日本電池善行寮

工業化学科

C3 (昭和48年3月卒業) 30名

氏名	勤務先	現住所
飯田 律夫		〒419-01 田方郡函南町間宮97-6
泉 清一	日本鉱業水島製油所製造部製造2課 ☎ <0864>55-9111 〒712 岡山・倉敷市潮通2丁目1番地	〒712 岡山・倉敷市水島高砂町3-10 日鉱高砂寮 ☎ <0864> 44-9563
岩崎 直人	大阪府	〒560 吹田市竹見台4丁目5番 節和寮206室
内田 賢二		〒606 京都・左京区北白川上別当町6
梅田 良明	東洋現像所	〒141 東京・品川区東五反田2-9-25
遠藤 一成	名古屋大学理学部	〒411 駿東郡清水町柿田208
大石 洋子	三共有機合成(株)工務部試験課 〒250 小田原市高田477	〒250 小田原市国府津1397 剣持アパート
大橋 由雄	綜研化学(株)	〒177 練馬区石神井台7-26-5 幸楽荘
荻野 禎治	ライオン油脂(株)中央研究所 ☎ <03> 613-1271 〒132 東京都江戸川区平井3-2397	〒275 千葉・習志野市谷津8-1724-1 谷津寮 ☎ <0475> 75-4993
垣見 祐二	和歌山大経済学部 ☎ <0734> 22-6126 〒641 和歌山市関戸278	〒641 和歌山市塩屋381 塩谷泰晴方 ☎ <0734> 44-4950
鎌田 俊己	住友化学工業(株)農薬事業部農薬合成第一研究室 〒665 兵庫・宝塚市高田4丁目2番1号	〒438 磐田郡豊田村気賀西425 ☎ <05383> 2-3869
河合 幸一		〒430 浜松市野口町494
坂田 勘治	静岡大学合成化学科 〒430	〒430 浜松市住吉町1-35-14 ☎ <0534> 72-5979
白井 祥夫	日本乳化剤(株)	〒211 川崎市中原区相伊熱町2523 日本乳化剤寮
鈴木 正利	東洋インキ製造(株)	〒416 富士市中島新道町351-1 第1富士見荘
清谷 泰弘	中京コココーラボトラーズ	〒432 浜松市西浅田2-2-1
高草 茂	中京コココーラボトラーズ	〒410-11 裾野市公文名142
竹中 保雄	旭ダウ(株)研究開発部 ☎ <044> 28-7551 〒210 川崎市川崎区夜光1-3-1	〒211 川崎市中原区上小田中181 旭ダウ新城寮 ☎ <044> 77-5911
田中 正	象印マホービン(株)	〒410 沼津市我入道林町518-1
内藤 貞夫	三菱電機(株)伊丹製作所製造管理部試作研究課 ☎ <06> 491-8021 〒661 尼崎市南清水字中野80 番地	〒664 兵庫・伊丹市南野字庵の前663-4 三菱電機大平寮 ☎ <0727> 81-2484
納谷 修	三島製紙(株)	〒417 富士市伝法2-2507-2
畑川 和彦	キーパー(株)	〒251 藤沢市城南2-3-8 キーパー(株) 男子寮
福田 昇		〒454 名古屋市市中川区中野本町1-5
藤谷 貫剛	静岡大学工学部	〒430 浜松市鼠野町45-3
前田 薫	山梨大学工学部精密課 ☎ <0552> 52-1111 〒400 甲府市武田四丁目4-37	〒400 甲府市古府中町4914-1 勝栄建設 ☎ <0552> 52-0033
前田 能成		〒167 杉並区久我山1丁目10-1 安田方
山本 和彦	(株)後藤製作所技術課 〒417 富士市大淵2429-3	〒417 富士市大淵2690 秋山アパート3号

山本 まり子	(株)リコー	
山本 芳春	本田技研工業(株)	
横井 敏春	トヨタ自動車工業(株)施設技術部環境設備課 ☎ <0565> 28-2121	

C4 (昭和49年3月卒業) 28名

浅場 正彦	大和製罐(株)清水工場製蓋課第1掛	〒421 -01 静岡市向敷936-2 小山方 ☎ <0542> 59-0775
井指 利阿己	共和レザー(株)	〒437-02 周知郡森町一宮1956-1 ☎ <05388> 9-7570
内山 久芳	日本楽器製造(株)	〒430 浜松市上浅田5-12 ☎ <0534> 54-5019
遠藤 友紀	静大工学部	〒430 浜松市広沢2丁目33-10 小沢正 一方 ☎ <0534> 53-1815
笠井 広喜	本田技研(株)浜松製作所	〒430 浜松市高丘町180-1 新高丘寮 314号
勝又 則吉	(株)三興製作所	〒210 川崎市中原区下小田中482 三興中 原寮 ☎ <044> 777-6527
加藤 高昭	日本工学工業(株)	〒210 川崎市高津区千年926 日本光学顕 光寮 ☎ <044> 788-6200
金子 雄二	川崎鉄工	〒420 静岡市小鹿3丁目1-39 ☎ <0542> 86-5636
熊沢 俊一	日産石油化学(株)高分子研究所	〒290 千葉・市原市辰巳合東4-1 日産若樹 若樹寮
斎藤 隆之	理科大学	〒416 富士市中島162 ☎ <0545> 63-1272
塩沢 博明	小西六写真工業(株)	〒192 八王子市大和田町2-5-19 小西六 大和田寮219号室 ☎ <0426> 42-5014
庄司 誠	池田物産(株)	〒229 神奈川・相模原市田名3302 ☎ <0427> 61-0246
白鳥 朋己	静岡ガス(株)静岡工場内製造課製造係 〒420 静岡市池田28	〒420 静岡市若松町2-3 ☎ <0542> 71-0078
鈴木 邦明	東亜燃料工業(株)	〒649-03 和歌山・有田市初島町里1262- 2 東燃第一竹田寮 ☎ <0734> 2-3564
鈴木 直人	旭化成工業(株)	〒210 川崎市中原区上小田中181 旭ダウ 新城寮
鈴木 秀規		〒417 富士市今泉8丁目15-22 ☎ <0585> 51-1170
瀬川 徹	東洋インキ製造(株)	〒410 沼津市内浦三津240 ☎ <0559> 43-2635
田代 宏	住友化学工業(株)第二応用研究部樹脂応用課 ☎ <06> 461-5401 〒554 大阪市比花区春日出町278-3	〒562 大阪・箕面市桜ヶ丘4丁目9-17 住友化学桜泉寮 ☎ <0727> 21-2413
田中 俊明	トヨタ自動車工業(株)	〒410 沼津市下香貫馬場478-1 ☎ <0559> 32-2309
土屋 正俊	藤沢薬品工業(株)環境保全課第二係 〒417 富士市中河原88	〒417 富士市西国窪2259-1 静朗荘内
角 替 俊 継	日産自動車(株)	〒221 横浜市神奈川区西寺尾町714 日産西寺尾寮71B201 ☎ <045> 433-2355

C4・M1・2

幡野博之

正田康司

百貫和寿 日本乳化剤(株)

本間裕幸 豊田紡績(株)

山崎俊二 ヤマハ発動機(株)品質保証第一課
〒438 磐田市新貝2500

山田久義 東洋醸造(株)第一研究部試作課 ☎ <0558> 76-2111
内線364 〒410-23 田方郡大仁町三福

渡辺敏一 住友重機エンバイロテック(株)

〒417 富士市吉原2丁目1-7
☎ <0545> 52-0999

〒431-03 浜名郡新居町新居1259
☎ <05359> 4-0511

〒251 神奈川・藤沢市鶴沼神明2-10-3
太陽商事方 ☎ <466> 23-5678

〒438 磐田市方久保町1282-45 鈴木方
☎ <05383> 2-7030

〒437-01 袋井市上山梨942-1
☎ <05384> 8-6051

〒410-21 静岡・田方郡韭山町内中154
☎ <05594> 8-3809

〒401-03 山梨・南都留郡河口湖町小立
770 ☎ <05557> 2-1526 渡辺方

浜田健明 三和シャッター工業(株)本社技術部技術課
☎ <03> 938-1111 〒174 東京・板橋区新河岸2-3
-5

早川富博

村田明 日本電装(株)生技部1-5課 ☎ <0566> 22-3311
〒448 愛知・刈谷市昭和町1-1

M2 (昭和43年3月卒業) 15名

市川利正 小川工業(株)型設計課
〒416 富士市五味島19-1

市川語 三菱重工広島精機製作所工作機械部技術管理課
〒730 広島市祇園町南下安540

大畑一夫 東海船舶工業(株)企画設計部
〒424 清水市宮加三700

大畑康明 日本ガラス(株)技術部技術室
〒467 名古屋市瑞穂区須田町

笠原勝弘 マキ製作所技術部
〒430 浜松市篠ヶ瀬630

勝俣満 富士写真フィルム足柄工場機器開発
〒250-01 神奈川・南足柄市中沼210

佐野昇 小松製作所小山工場生産技術部生産技術課
〒323 栃木・小山市横倉新田400

塚本勝博 九州ベークライト工業(株)
〒822 福岡・直方市境水町

中村洋 ㈱丸仲鉄工所技術部設計課

辻弘美 日立清水工場空製部エバポレータ製作課

関谷穂積 住友金属(株)和歌山市製鉄所第2設備課
☎ <0734> 51-2345

中西幸雄

長橋直人 Calif 大学在学中

仁科和晴 ㈱コータキ大阪営業所 ☎ <06> 271-5451
〒561 大阪・大阪市

脇雄作 横浜ゴム設備部設備開発G課

M3 (昭和44年3月卒業) 27名

青嶋実紀

市川雅

井出哲二

井林長男

今井香

岩田純一

〒354 埼玉・富士見市鶴瀬西2丁目8
鶴瀬第2団地130-303

〒363 埼玉・桶川市泉町1-1-3 吉沢方

〒448 愛知・刈谷市天王町7-1 電装社
宅

〒418 富士宮市青木1046

〒730 広島市祇園町北下安232-6 鑿松
園アパート5号

〒424 清水市駒越2111

〒482 岩倉市岩倉団地14-310

〒431-31 浜松市有玉南町1598

〒250-04 神奈川・足柄下郡箱根町宮城
野732

〒323 栃木・小山市雨ヶ谷831 小松G.
T13-404

〒822 福岡・直方市頓野字宮の前1921

〒426 藤枝市前島3丁目2番1号

〒424 清水市日立町18-8

〒641 和歌山・和歌山市関戸1丁目4-7
住金住宅233 ☎ <0734> 45-6706

Draper Hall 6010 J Street
Sacramento, Calif 95819 U.S.A

〒561 大阪・豊中市本町2丁目1-57
双葉荘 ☎ <06> 853-3377

〒259-12 平塚市長持169

〒271 千葉・松戸市八ヶ崎754 山佳荘

〒410-11 裾野市茶町246-1
☎ <05599> 2-0359

〒501-42 岐阜・郡上郡八幡町初音 郡
上工芸研究所

%MRS MARQITA PARETTA
172-0533 AVENUE FLUSHING
NEW YORK 11358 U.S.A

〒170 豊島区大塚3-22-4 国鉄西巢島
荘

〒411 三島市幸原町1-74

住所変更者

機械工学科

M1 (昭和42年3月卒業) 18名

氏名 勤務先 現住所

跡部恵一朗 電業社機械製作所技術本部第1設計部第2設計課
☎ <0559> 75-8221 〒411 三島市緑町10-24 〒410 沼津市大岡南小林3319-1

大原勇治 巴川製紙所用宗工場工務部設計課 ☎ <0542> 57-4151 〒421-01 静岡市寺田21-9
〒421-01 静岡市用宗110

奥田温一 電業社機械製作所技術本部第二設計部第四設計課
☎ <0559> 75-8221 〒411 三島市緑町10-24 〒410 沼津市下香貫浜田2988-14
☎ <0559> 31-6517

川口彦太郎 花王石鹼(株)包装技術部 ☎ <03> 617-4161
〒131 東京・墨田区文化2-1-3 〒285 佐倉市下志津牛が久保1705-190

川本皓生 遠州クロス(株)技術部 ☎ <0534> 47-2111
〒434 浜北市根堅788 〒434 浜北市根堅1532-3
遠州クロス社宅102

川村寛治 日産自動車工業(株)海外事業本部輸出部企画課
☎ <03> 272-8401 〒104 東京・中央区八重州5-7
(八重州三井ビル) 〒987 宮城・遠田郡小牛田町北浦字大口
132-27 矢野方

小池龍三 ジャパンコミュニケーション(自営)
☎ <0559> 51-7555 〒410 沼津市平町20-12 〒410 沼津市平町20-12
☎ <0559> 51-7555

河野雅之 外務省 海外留学

後藤勝雄 日本電気(株)伝生産技術部 ☎ <044> 41-1111
〒211 川崎市下沼部1753 〒172 稲城市大丸493

佐々木浩 ㈱水口製作所技術部 ☎ <05599> 2-1255
〒410-11 裾野市平松661 〒410 沼津市西間門237-1
☎ <0559> 63-2178

白井一夫 東芝機械(株)沼津事業所工作機械製造技術課
☎ <0559> 21-5240 〒410 沼津市大岡2068-3 〒419-01 田方郡函南町間宮828
☎ <0559> 78-2957

高野治 東洋製缶(株)埼玉工場生産管理課品質第一係
〒355-01 埼玉・比企郡吉見町大字下細谷950-2 〒355 埼玉・東松山市箭弓町2-8-33
東岳第2東松山寮

塚本雄次郎 交通安全公害研究所公害部 〒181 東京・三鷹市新川6-38-3

長沢泰 安立電気(株)産業機械部営業課
〒106 東京・港区南麻布4-12-20 〒222 横浜市港北区富士塚1-14-11
鎌田荘

長谷川浩之 ㈱H.K.S
〒418-02 富士宮市上井出字小芝2266 〒418-02 富士宮市上井出2213

M3・4

大地 喜久 〒410 沼津市岡一色780
☎ <0559> 21-7546

大橋 正明 〒420 静岡市北268-2

小笠原 秀和 〒250 小田原市板橋706

岡本 惇(旧姓 加藤) 〒145 大田区東雪ヶ谷3-32-14 石川台
ハウス25号

金子 光司 〒614 京都・綴喜郡八幡町男山団地C21
-204号

河原崎 雄三 〒420 静岡市北安東1-18-8

北川 五一 〒438 磐田市西貝塚3450 貝塚寮

小林 俊行 〒410-11 裾野市平松133-1

齋藤 猛 日本ペーレー(株)開発部
〒102 東京都千代田区紀尾井町3-4 剛堂ビル

沢野 寿久 (株)テレビ商会

塩川 修治 〒273 千葉・船橋市二宮1-43-8 赤城
荘

白井 民夫 〒240 横浜市保土谷区常盤台355-1

高木 治雄 〒246 横浜市瀬谷正二ツ橋町543 山本方

田中信博 花王石鹼(株)包装技術部
〒131 東京・墨田区文花2-1-3

中山 治巳 〒410 沼津市三枚橋145

長沼 久資 〒440 豊橋市植田町字清水山3-5 清水
荘

藤巻 勉 〒273 千葉・船橋市行田町8

松井 貞行 〒424-04 清水茂野島213-1

松永 孝 〒183 東京・府中市紅素ヶ丘3-26

宮入 信雄 〒275 千葉・習志野市谷津4-518

山田 隆男 〒419-02 富士市鷹岡町入山瀬久保

〒963 福岡・郡山市方八町1-2-2 藤尾
荘

〒419-02 富士市鷹岡町天間901-11

〒441-12 愛知・一宮市音羽1-1-28

M4 (昭和45年3月卒業) 20名

秋葉 高志 46年より ヨーロッパ 不在中

相原 幹雄 東洋工業

池田 喜重 リコー沼津工場工務部工務課
〒410 沼津市本田町16-1

石川 茂 日産自動車(株)第3工機部型設計 ☎ <0425> 61-1111
〒189 東京・武蔵村山市中藤6000

市川 章 アルプス電気古川工場自動機設計
〒989-61 宮城・古川中里

大石 幸男 〒435 浜松市 野町1061
☎ <0534> 33-4028

萩原 治光 豊田自動織機製作所産業車輛事業部
☎ <0566> 53-3111 〒444-13 高浜市中久伝1-1

北川 久三男 古河電気工業(株) 〒254 平塚市董平16-6 古河電工寮

M4・5

後藤 政志 遠州製作(株)ニット開発部
〒430 浜名郡可美村高塚4888

桜井 隆 富士電機製造(株)三重工場作業研究課
☎ <0593> 31-6111 〒510 四日市市富士町1-27

佐野 由幸 東横工業(株)化工施設 ☎ <045> 321-1351
〒220 横浜市西区平沼2丁目11-11

沢崎 春樹 三井造船労働組合 ☎ <03> 452-8588
〒105 東京・港区芝2丁目20-12

鈴木 敏文 新日本製鉄(株)名古屋製作所技術管理部分析課

西尾 富士雄 日立精機(株)

林 義章 東京精密生産本部生産技術部 ☎ <0298> 31-1234
〒300 土浦市東中貫4

二橋 岩雄 トヨタ自動車工業(株)

疋田 和義 東芝鶴見工場電動機部中形同期設計課
☎ <045> 511-1351 〒230 横浜市鶴見区末広町2-4 ☎ <045> 502-4881

三浦 敏博 川崎重工(株)航空事業技術部 ☎ <0583> 82-5111
〒504 各務原市蘇原三柿野町

山本 雅和 荏原製作所第2機械部設計二課 ☎ <044> 41-8111
〒211 川崎市北加瀬50

湯山 幸夫 東芝電気(株)送電技術部 ☎ <044> 51-1111
〒210 川崎市幸区小向東芝町1番地

〒430 浜松市三島町952

〒510 四日市市三重4丁目4328-55

〒222 横浜市港北区篠原東3丁目22-17

〒110 東京・台東区6丁目1-11 谷中寮
☎ <03> 822-2436

〒457 名古屋南区柵下町1-39
新日鉄笠寺寮

〒277 千葉・柏市南増尾56-5
日立精機柏社員寮

〒300 土浦市常名町新郭4004-1
県営都和アパート1-3-3号

〒471 豊田市丸山町9-1 丸山豊和

〒230 横浜市鶴見区鶴見町1161-4-508
☎ <045> 502-4881

〒504 各務原市蘇原三柿野町3-4-2

〒223 横浜市港北区日吉町2000 荏原日
吉寮

〒244 横浜市戸塚区下倉田町1550-30
富士通マンション1棟35号

M5 (昭和46年3月卒業) 25名

池田 晴光 (株)金指造船所設計部機装課 ☎ <0543> 34-5151
〒424 清水市三保491-1

稲吉 敏邦

大石 功

大塚 政司

大野 順三

岡田 清

片岡 慎一

勝又 徹

木村 修

沢原 富士雄

杉山 裕司

鈴木 克利

鈴木 真琴

田口 尊博

田中 裕史

〒424 清水市下野547-5

〒443-01 愛知・蒲郡市形原町上辻11-1

〒486 愛知・春日井市小木田町6 鈴与春
日井寮

〒590-05 大阪・泉南市岡田1843

〒430 浜松市船越町20-7

〒242 神奈川・大和市深見台1丁目11-9
第三みどり荘

〒192 東京・八王子市東浅川町318 高尾
寮

〒463 名古屋守山区小幡北山276-609

〒253 茅ヶ崎市矢畑金山42 三興製作所
金山寮

〒420 静岡市大岩1丁目8-25

〒421-12 静岡市山崎2丁目1-20

〒350-02 埼玉・入間郡坂戸市田町字東海
村1500

〒562 大阪・箕面市稲538 全日空稲寮

〒442 愛知・豊川市諏訪3丁目123 新東
工業独身寮

〒673 明石市西明石町1-3-5 西明石寮

M5・6

柘植 宗紀
富田 直治
中戸川 武
堀井 常雄
平柳 正滋
松江 秀隆
山下 隆志
山村 一昭
米山 孝夫
渡辺 彰男

富士通川崎工場伝送機器部電源課
☎ <044> 777-1111 〒211 神奈川県・中原区上小田中1015

〒230 横浜市鶴見区岸谷1-3-25 東京ガス(株)生麦寮
〒411 駿東郡清水町徳倉岩下66
〒412 御殿場市神山911-4
〒410 沼津市今沢165 今沢寮
〒416 富士市松本325-1
〒141 東京・品川区西五反田4-18-2 須賀工業西五反田寮
〒674 明石市魚住町清水95-1 第1鴨谷寮
〒242 神奈川県・大和市つきみ野3-1-5
〒412 御殿場市川島田508-1
〒227 神奈川県・横浜市緑区荏田町2646-5 富士通第7市ヶ尾 ☎ <045> 973-4020

M 6 (昭和47年3月卒業) 37名

飯田 次男
上田 峰生
太田 和義
大竹 雄二
岡野 正幹
勝間田 達雄
勝又 丈雄
亀井 英夫
河村 和成
木戸 実
木村 純三
齋藤 徹
坂本 範雄
佐藤 芳栄
佐野 靖

三菱電機静岡製作所空技課
〒420 静岡市小島三丁目十八番1号
富士ゼロックス
鈴木自動車工業(株)第一技術部車体実験グループ
〒430 浜名郡可美村高塚300
川崎重工発動機事業本部技術総括部技術部試作計画課技術課
東燃
高千穂パロース(株)名古屋支店技術部沼津出張所
兼松セミコンダクター(株)営業第3部第2課
〒104 東京・中央区八丁堀2-8-5 第2長岡ビル
東芝電気
アイシン・ワーナー
明電舎
山武ハネウエル(株)機器制御事業部機器制御課
〒150 東京都渋谷区渋谷2-12-19
東京工業大学、大学院
〒152 東京・目黒区大岡山2-12-1
千代田化工
日産自動車横浜工場第2工務課
☎ <045> 511-1321 内線3226
〒230 横浜市鶴見区大黒町六番一号

〒420 静岡市曲金248番地 三菱電機寮
〒243-02 神奈川県・厚木市飯山2613 富士ゼロックス厚木寮
〒432 浜松市富沢363-6
〒674 明石市大久保谷八木295 白雲寮
〒649-03 有田市初島町浜東燃第2楚都浜寮
〒412 御殿場市川島田1773
〒332 埼玉・川口市芝125 芳葉荘
〒458 名古屋市緑区鳴浜町字伝治山43 東芝鳴浜寮
〒444-11 安城市川島田中田1番地 アイシン・ワーナー川島寮
〒144 東京・大田区東嶺町32-9 第一久ヶ原寮
〒232 横浜市南区浦舟町1-18
〒157 東京・世田谷区北島山町6-31-2 島山寮
〒141 東京・品川区旗の台6-11-14 福川方
〒215 川崎市千代ヶ丘2-9 千代田化工建設(株)百合丘寮
〒221 横浜市神奈川区西寺尾町714 日産西寺尾寮 A103号 ☎ <045> 433-2355

M6・E1

白畑 安信
鈴木 明
筒井 正文
中川 勝
永野 仁
夏目 宗久
西上 雅国
羽田 寿夫
八田 健
樋口 陽二
星野 晴次
本間 一美
松岡 敏郎
増井 康二
三浦 猛
三田 敏郎
三石 栄司
望月 正孝
山田 敬二
山本 和夫
由比藤 清
吉村 任令

東洋ベアリング
住友重機械
スタンレー電気(株)電装工場生産技術課
〒257 神奈川県・秦野市
日立プラント建設(株)大塚分室上下水道部第3課
〒170 東京都豊島区北大塚1-13-2
田村電機
小松製作所産機事業部
バブロック日立(株)化機設計部
〒737 広島・呉市宝町八番地
法政大学工学部在学
荏原インフィルコ第4技術部計画課
日本電装
カルピス食品工業
三菱重機械
日産自動車
〒230 横浜市鶴見区大黒町6-1
日本精工(株)前橋工場第2工作課付
〒371 前橋市鳥羽78
トヨタ自動車工業(株)東富士研究所第11技術部第11実験課第2係
藤倉電線(株)電力事業部技術開発部
〒135 東京都江東区木場1丁目5番1号
旭硝子(株)京浜工場加工硝子部製造第2課
☎ <045> 521-2121 〒230 横浜市鶴見区弁天町2番地
パイオニア(株)第1音響部静岡工場技術部技術一課
石川島播磨重工業(株)化工機事業部装置設計部装置設計課
〒135-91 東京・江東区豊洲3-2-16

〒483 磐田市東貝塚1368 第1拓東寮内
〒247 鎌倉市岩瀬1-25-5 住友重機械清明寮
〒419-01 田方郡南町肥田943
〒115 東京・北区浮間1-13 日立プラント浮間寮
〒214 川崎市多摩区登戸2645-2 第2早川荘
〒923-03 石川・小松市符津町788 松風寮
〒737-01 広島・呉市広町672-9 バブロック日立安永寮
〒183 東京・府中市片町2-1 加島荘内
〒222 横浜市港北区日吉本町2000-4 荏原日吉寮 ☎ <044> 63-0176
〒448 刈谷市昭和町1丁目1 誠和寮
〒299 神奈川県・上鶴間3615-1 スズラン荘
〒435 名古屋市村中區岩塚町小池1-1 三菱重工第4菱風荘
〒221 横浜市神奈川区西寺尾714 日産西寺尾寮
〒440 豊橋市植田町清水山3-5 清水荘
〒371 群馬・前橋市鳥羽468
〒410-11 裾野市今里375-1 トヨタ自工第2東富士寮
〒457 名古屋市南区35-1 桜荘
〒416 富士市新浜790
〒230 横浜市鶴見区諏訪坂20-3 旭硝子北寺尾寮 ☎ <045> 581-3761
〒980 仙台市米ヶ袋1丁目4-21 佐藤みつ子方
〒437 静岡・袋井市高尾2169-3 三門荘
〒158 東京・世田谷区等々力6-18-3 石川島等々力

電気工業科

E 1 (昭和42年3月卒業) 14名

漆畑 豊
大内 康憲
大日方 一郎

東京電気(株)三島工場灯器部安定器技術課
☎ <0559> 71-7111 〒411 三島市南町6番78号
(株)日立製作所戸塚工場機器設計部部品設計グループ

〒410 沼津市大岡2232-16 山崎荘
〒186 東京・国立市西1-9-35 清和荘6号
〒244 横浜市戸塚区原宿町487 日立吹上寮

E 1・2

梶 沢 嘉 彦 中部電力(株)浜岡原子力建設所電気課
〒421-06 静岡・榛原郡御前崎町白羽字砂原6973

菊 地 芳 彦 〒357 埼玉・飯能市大字岩淵525-4

草 分 孝 太 郎 海上自衛隊大湊造修所武器部
〒039-51 むつ市大湊町322号

後 藤 元 臣 〒430 浜松市中沢町7-6 日本楽器黎明寮

鈴 木 啓 己 日本ビクター(株)ビデオ事業部
〒221 横浜市神奈川区守屋町3-12

田 中 甲 志 雄 〒194 東京・町田市高ヶ坂3号514-15

柘 植 正 隆 〒020 盛岡市加賀町3丁目12-11

永 田 勝 美 〒420 静岡市大岩2丁目34-18
神奈川・座間市栗原5285-3

西 野 三 代 治 〒435 浜松市曳馬町523-2

藤 曲 幸 雄 〒254 神奈川・平塚市南原3-1-18
湘南荘

松 岡 孝 一 日本国有鉄道岡山鉄道管理局総務部人事課
☎ <0862> 25-1171 〒700 岡山市駅前町2-1-7

E 2 (昭和43年3月卒業) 18名

石 原 利 章 関西電力(株)火力部火力係課
〒530 大阪市北区中之島3-5

岡 田 克 己 電電公社資材局線材調理課線材係

岡 本 辰 夫 (株)東洋ベアリング磐田製作所AU事業部
〒438 静岡市磐田市東貝塚1578

帯 金 智 之 国鉄東京新幹線工事局コムトラック

小 出 富 夫 (株)クリエート技術部 ☎ <03> 337-1266
〒166 東京・杉並区高円寺北2-29-15

小 出 晴 雄 トリオ(株)海外事業部営業部

鈴 木 健 二 東京電力(株)

鈴 木 等 (株)CBSソニー静岡工場品質課
〒421-02 静岡・志太郡大井川町

竹 越 友 昭 富士フィルム(株)吉田南工場工機部

田 代 泰 美 〒426 藤枝市藤岡2丁目8番20号
☎ <05463> 2-7115

田 中 富 士 夫 シャープ(株)半導体事業部技術部
〒632 天理市樺本町2613-1

土 屋 清 東芝電気(株)日野工場画像宅内機器部
☎ <0425> 83-1111 〒191 日野市旭ヶ丘3-1-1

富 山 頼 二 〒181 東京・三鷹市下連雀3-42-17ちよし

豊 田 益 治 〒213 川崎市高津区下野毛878
富士通下野毛寮230

藤 井 昭 〒471 豊田市平和町4-48 平和アパート
641号

若 松 純 夫 〒425 静岡市焼津市小川1827-1

八 木 芳 弘 CBSソニーレコード品質課
〒421-02 静岡・大井川町相川

E 2・3・4・5

望 月 達 彦 富士通名古屋営業所SE課
〒460 名古屋市中区錦1-19-24

〒461 名古屋市東区大幸町8-2

E 3 (昭和44年3月卒業) 12名

稲 葉 務 東京芝浦電気(株)日野工場伝送機器部移動無線技術課
〒191 東京・日野市旭ヶ丘3-1-1

井 上 修 自 営 〒400 山梨・甲府市相生二丁目13-3号

大 塩 忠 日立製作所高崎工場小信号トランジスタ部
〒370-11 群馬・高崎市西横手町180

太 田 猛 日立電子(株)情報処理システム部 ☎ <0423> 22-3111
〒187 東京・小平市御幸町32

神 谷 誠 松下電気固定抵抗器事業部集積回路研究部第2研究室 〒570 守口市藤田町5丁目103

小 林 良 夫 古河金属(株)技術協力部工務課 ☎ <0288> 4-0501
栃木・日光市清滝500番地 〒321-14 日光市清滝安良沢1750番地25条25号 ☎ <0288> 4-2727

高 田 正 実 富士電機製造(株)制御技術部システム開発部ソフトウェア開発室
☎ <044> 33-7111 〒210 川崎市田辺新田1-1

田 村 正 一 (株)日立製作所神奈川工場検査大型機検査 ☎ <0463> 88-1311
☎ <0463> 88-1311 〒259-13 神奈川・秦野市堀山下1番地 〒259-13 神奈川・秦野市堀山下495

原 野 多 立石電機(株)東京支店特機一課 〒230 横浜市鶴見区梶山2-11-14
〒143 東京・大田区平和島6-1-1 第二カエテ荘2号

本 多 博 富士写真フィルム(株)足柄工場工機部電気課 〒250 小田原市浜町4-25-40
☎ <0465> 74-1111 〒250-01 神奈川・足柄上郡南足柄町中沼210 ☎ <0465> 22-0133

長谷川 進 一 49. 9. 7 死亡

米 倉 幹 夫 (株)アマダ鍛圧機械事業部技術部 〒250-01 神奈川・南足柄市向田434
〒259-11 伊勢原市 ☎ <0465> 74-8367

E 4 (昭和45年3月卒業) 3名

小 林 正 直 死亡

田 代 六 美 〒158 東京都世田谷区深沢1-12-10

美 尾 恵 己 日立製作所神奈川工場開発部 〒259-13 神奈川・秦野市戸川641
☎ <0463> 75-0924

E 5 (昭和46年3月卒業) 16名

青 木 誠 〒228 相模原市相南4-23-4 保坂荘

秋 元 信 雄 〒166 東京・荒川区東尾久5丁目44-27
東電田端寮

秋 山 康 孝 〒417 富士市今泉6丁目12-36

石 亀 勇 男 〒733 広島市観音本町2-7-18
日立観音寮

伊 藤 修 〒448 刈谷市高松町3-65

近 藤 安 明 〒210 川崎中原区上田中570 力丸荘

佐 野 幸 雄 〒223 横浜市港北区大豆戸町217

E 5・6・C 1

杉崎 兼男
 鈴木 儀雄
 田中 直己(柳下)
 戸塚 芳男
 西里 志延 TDK電子事業部開発部 ☎ <0473> 24-1111
 〒272 市川市市川南
 中村 文久
 増田 隆俊
 山口 道雄
 渡辺 広美(鈴木)

E 6 (昭和47年3月卒業) 3名

加藤 恵一 富士通㈱ ☎ <044> 71-1111
 〒210 川崎市中原区上小田中1015
 久保田 徹郎 富士ゼロックス海老名工場QA部計測技術グループ
 ☎ <0462> 32-3111
 〒243-04 神奈川・海老名市本郷2274
 榊原 裕之 富士電機製造㈱東京工場制御技術本部開発課
 〒191 東京・日野市富士町1

〒411 三島市西若町5-7
 〒412 御殿場市沼田544
 〒421-21 静岡市安部口新田635 県営ア
 パート8-295
 〒228 相模原市淵野辺3丁目4-12 薄井
 方
 〒272 市川市東大和田2-17-3 TDK
 八幡寮 ☎ <0473> 34-9907
 〒569 高槻市幸町2-8 松槻荘
 〒230 横浜市鶴見区鶴見1-6-13
 〒250 小田原市鴨宮136-4
 〒222 横浜市港北区菊名町818 アプロ荘

〒227 神奈川・横浜市緑区荏田町2152
 富士通第6市ヶ尾寮303 ☎ <045> 911-4380
 〒243-04 神奈川・海老名市杉久保2115
 -1
 〒191 東京・日野市多摩平6丁目2719
 富士電機多摩平第3寮 106号室
 ☎ <0425> 81-1163

工業化学科

C 1 (昭和46年3月卒業) 20名

飯田 栄治 ㈱三興製作所エンジニアリング本部化工機設計課
 ☎ <045> 521-1781 〒230 横浜市鶴見区生麦4丁目
 6-29
 池谷 至 三菱瓦斯化学山北工場研究開発部研究開発課
 ☎ <0565> 75-1111
 石田 鋼太郎 東邦ガス港明工場生産管理課生産調整係
 ☎ <052> 661-4181 〒455 名古屋市港区港明町3-
 27
 市川 三郎 藤沢薬品富士工場製造一部二課
 市川 紳一 東亜燃料川崎工場管理課試験係
 稲勝 元 稲勝書店(自営)
 内田 昭 青山学院大学英文科(在学中)
 長田 豊司 出光石油化学商品開発研究所 ☎ <047875> 2311
 〒292-01 千葉・君津郡袖ヶ浦町上泉
 川崎 博夫 ワールドショッピングクラブ(自営)
 ☎ <0543> 64-3435 〒424 清水市淡島町11-14
 桜橋ビル内
 桜井 直紀 レブロン袋井工場製造部研究室
 ☎ <05384> 2-5151 内線270 〒437 袋井市西田100

〒247 鎌倉市台町2-18-9 野々村荘
 ☎ <0467> 62-2348
 〒410-13 駿東郡小山町湯船
 ☎ <0550> 6-0883
 〒491 愛知・一宮市大和町馬引字古宮4524
 ☎ <0586> 45-6123
 〒410 沼津市西高沢町11-9
 ☎ <0559> 21-4928
 〒235 横浜子磯子区岡村町763-25 東燃
 岡村西寮 ☎ <045> 761-1938
 〒430 浜名郡可美村高塚452-6
 ☎ <0534> 47-0010
 〒167 東京・杉並区大沼3-31-10 青蘭
 荘5号 ☎ <03> 393-3195
 〒292-01 千葉・君津郡袖ヶ浦町上泉出
 光平川寮 ☎ <0437875> 2536
 〒424 清水市追分町3丁目3-7
 〒420 静岡市古庄600-17
 ☎ <0542> 62-4132

杉山 敏博 静岡県警静岡中央署青葉派出所 ☎ <0542> 53-0111 〒420 静岡市中央署内銭座寮
 関 清司 静岡市役所公害課 〒420 静岡市名瀬830 県営東部団地H棟
 207号 ☎ <0542> 62-2348
 滝口 栄二 ブリヂストンタイヤ タイヤ安全管理課 〒189 東村山市恩多町2-29-1 B S 青年
 館 ☎ <0423> 94-1461
 竹内 豊 静岡大学工学部大学院(在学中) ☎ <0534> 71-1171 〒430 浜松市富塚町919-110 鈴木方
 〒430 浜松市城北3丁目5-1 ☎ <0534> 72-3084
 津ヶ谷 隆男 家業手伝い 〒431-14 引佐郡三ヶ日町都筑2105
 ☎ <05352> 6-7292
 日向 清隆 本田技研工業㈱四輪車体品質課 ☎ <0593> 78-1212 〒513 鈴鹿市算所町1044-1 三鈴アパ
 〒513 鈴鹿市平田町1907 ト5号
 藤原 一志 リコー㈱沼津工場技術3課 ☎ <0559> 21-2251 〒411 駿東郡長泉町下土狩1727
 〒410 沼津市本田町16-1 ☎ <0559> 86-0789 柳
 三浦 進 カネボウ㈱薬品研究所 ☎ <06> 921-1231 内線579 〒583 大阪・藤井寺市岡2丁目2-15
 〒534 大阪市都島区友淵町13-80 ☎ <0729> 55-3048
 村瀬 涉 名古屋大学数学科(在学中) 〒420 静岡市二番町4
 〒464 名古屋市千種区不老町 ☎ <0542> 52-4814
 山本 正俊 日本アスベスト㈱鹿島出張所 ☎ <4794> 6-1313 〒314-02 茨城・鹿島郡波崎町字柳川39
 〒314-02 茨城・鹿島郡波崎町字柳川3998 98

C 2 (昭和47年3月卒業) 25名

磯部 由之 〒392 諏訪市四賀桑原857 四賀精和荘
 ☎ <02665> 2-1018
 市川 衛 日木オイルシール工業㈱技術管理総務(特許) 〒254 横浜市戸塚区小菅ヶ谷1695 森山
 ☎ <0466> 36-1111 〒251 藤沢市辻堂新町4-3-1 荘
 泉 克幸 東京工業大学資源化学研究所池田研究室 〒152 目黒区大岡山15-8 伊豆海荘
 〒152 目黒区大岡山2-12-1
 岩下 清 〒532 大阪府東淀川区犬道町2-130
 ☎ <06> 328-5139
 大獄 修 〒419-02 富士市天間1547 代山寮
 ☎ <0545> 72-4205
 柏木 忠久 ブックローン 〒259-03 神奈川・足柄下郡湯ヶ原町鍛
 〒250 小田原市本町1-4-4 治屋551 ☎ <0465> 62-3455
 勝亦 国臣 静岡東部電子計算センター 〒410-03 沼津市平沼522-1
 〒410 沼津市東間門139-4 ☎ <0559> 66-3020
 勝又 計悟 大川原製作所 ☎ <05483> 2-3211 〒421-03 榛原郡吉田町神戸3217-3
 〒421-03 静岡・榛原郡吉田町神戸2147 大川原製作所 東名寮
 神村 秀隆 〒174 東京・板橋区蓮根3-16-1 蓮根
 独身寮 ☎ <03> 969-4641
 小林 修 〒569 大阪・高槻市宮野町9-35 住友化
 学北辰寮402号 ☎ <0726> 74-0356
 小宮山 政晴 東北大学 〒980 仙台市原町小田原土手前松岡寮
 近藤 則 〒562 大阪・箕面市桜1-5-11
 ☎ <0727> 21-4592
 桜井 充 〒745 徳山市若草町6-37 出光石油若草寮
 ☎ <0834> 21-8933
 佐藤 輝彦 味の素㈱横浜工場 〒230 横浜市鶴見区馬場町5-10-17 松
 風荘独身寮 ☎ <045> 571-5688
 佐野 秀明 〒256 小田原市国府津3丁目13-12 星
 崎アパート

清水 克 則

鈴木 和 男

都 築 融

萩 原 俊 男

原 田 一 俊

前 田 浩 史

松 本 浩 行

佐 野 宏 子 (村上)

望 月 信 昭 日本光学(株)大井製作所工作部外装課
〒140 品川区西大井1-6-3

米 山 義 郎

〒420 静岡市三番町44
☎ <0542> 53-6691〒567 茨木市下穂積4-7-41 瑞穂寮
☎ <0726> 22-3067〒662 西宮市北昭和町7-9 日本ペイン
ト昭和寮 ☎ <0798> 66-0222〒657 神戸市灘区高尾通3-2-33 神戸
大学国維寮〒223 横浜市港北区日吉本町2000-14
荏原日吉寮 ☎ <044> 63-0176〒227 横浜市緑区たちだな台2-9-1
富士フィルムみどり寮 ☎ <045>962-3407
☎ <045> 962-3407〒254 平塚市八幡上高門945小松電子金属
(株) 男子寮 ☎ <6043> 22-6661〒256 小田原市国府津3丁目1-21
星崎アパート

〒210 川崎市高津区新作1-7 新光寮

〒211 川崎市中原区上小田中181 旭グウ
旭化成新城寮

編 集 後 記

会誌編集にあたり、教職員及び同窓生の絶大なる協力がありましたことに対し感謝申し上げます。

編集委員は内容において、同窓会の基盤となるべき名簿関係、総会報告、旧教官及び同窓生の近況など同窓生みなさんの欲している事を編集したつもりですが、行き届かない点、また意見等ありましたら同窓会まで連絡していただきたい。今後も理事会では、同窓生及び教職員
の原稿を主とした会誌と、同窓会の総会報告など事務的
報告の同窓会だよりの2種類を発行する予定です。

将来の会誌編集において同窓生の原稿の集りが悪かったのが気がかりですが、内容にこだわらず同窓会まで送っていただきたい。また会誌の名前を募集していますのでよろしくお願いします。最後に理事会では行方不明者の欄を早くなくすよう努力していますが、同窓生みなさんの協力をお待ちしています。

編集委員長 M 5 堀井常雄

編集委員 M 7 大庭公一 M 7 杉山高一

M 8 石橋正之 M 8 近藤博明

同 窓 会 誌 第 4 号

昭和49年12月15日 発行

発行責任者 沼津工業高等専門学校同窓会
伊 達 忠 昭〒410 沼津市大岡3600
沼津工業高等専門学校内
TEL 0559-21-2700印刷所 ジャパンコミュニケーション
〒410 沼津市平町20-12
TEL 0559-51-7555